法學士坪内武四郎著

ファッシズム

東京
教育研究會版

法學士 坪内武四郎著

ファッシズム

東京 教育研究會刊

序

ファッシズムの運動風は、今や全世界をふきまくつてゐる。熱風となり、寒風となり、暴風となり、强風となり、弱風となり、順風となり？　逆風となり、旋風となり、突風となつてふきまくつてゐる。その形態は各々國々によつて異相ではあるが、

何うして？

本書はファッシズムの全貌をながめることにした。從つて、ファッシズムの概念をとらへ得れば、この企ての目的は達せられる。

ファッシズムは何故全世界を風靡したか？

昭和七年八月二十二日

（第六十三議會成立の日）

著　者　識

ファッシズム目次

第一章　ファッシズムの擡頭

第一節　ファッシズムの源泉

一、イタリヤの國狀　紺碧の色、波靜かなる南歐の海、その上を流れ來る風、橄欖樹下に憩ふ快さ。其處には自ら詩が生れ、彈琴の調べ整ひ、丹靑の妙技が起つてくる。併し事實現代のイタリヤは、そんな甘い夢を見てゐるところではない。黑シヤツツに身を固めて、古代ローマ帝國再建のために、全力をあげて突進邁往しつゝあるのである。

元來イタリヤは、古代ローマの滅亡以來、殆んど平和な時代が見られなかつたと言つて宜い國である。周知の如くイタリヤは、地中海の中に突出した長靴である。その上部北方と下部南方とでは同一國でありながら言語、風俗、習慣、食物等に於て、著しく相異るのである。これは一にイタリヤにのみ限られた事ではない。我日本に於ても、靑森と鹿兒島とでは、その方言を以つて語るならば、全然相通ぜざると同然である。併し乍らイタリヤに於ては、日本とは違つて南北により人種を異にするのである。即ち北方イタリヤには主としてケルトの血が多く、

南方イタリヤにはノルマン及びサラセン人が多い。かゝる人種的相違の存するためか、ローマ帝國滅亡後のイタリヤには、群小國家の割據絶え間なくうち續いて、「權力こそは正義なり」と叫ばしめたものである。

イタリヤ民族主義に於て、かつては國民的英雄として崇敬せられた、ジユセツペ・ガリバルヂーが、サルヂニヤ王、ヴィツトリオ・エマヌエル二世を補援して、一八四八年から一八七二年に至る迄の二十餘年間は、實に悪戰苦闘そのものであつた。しかも漸くにして一八七二年に至つて、エマヌエル二世は首都ローマに入つて王家を興し、イタリヤは此處に立憲君主制を建てたのであつたが、この大業成就後に於てのイタリヤ國情は、尙決して平安一日も枕を高うするわけには行かなかつたのである。

二、內政の混亂　一八七二年立憲君主制が創建せられ、議會政治が施行せられたことは、全イタリヤ統一上には一大貢献であつた。それがためにか、從來一般に王室は、國民より比較的孤立の地位にあつたのであるが、ヴィツトリオ・エマヌエル二世は、イタリヤ民族解放者として國民に特に敬慕されたのであるが、一九〇〇年第三世ヴィツトリオ・エマヌエルが、王位を繼承してから後の國內は、日に日に多事を加へるのみであつた。

イタリヤの面積は實に三十一萬平方キロで、この土地に住する人口は四千百十四萬五千餘人（一九三一年四月調査）である。この三十一萬平方キロに四千百餘萬の人口は、一平方キロの密度にして百三十四人となり、決して並々ならぬ人口といふべきであらう。而して之等の人々が、南北に於て人種を異にし、言語・風習・食物從つて又性格・思想を異にしながら、一堂に會して、一國の政治を議する事は、初期の議會に於て如何なるものなるかは、想像に難くない所である。

然るにイタリヤの議會政治は、この創生初期の時から腐敗汚濁を極め、その選擧に際しては早くも投票買收、官憲濫用、暴力團の横行等が、大規模に行はれたといふに至つては、何の爲に惡戰苦鬪をなめ盡して、國民の解放を斷行したのであるか、その意義を全然解せざるものと呆然たらさるを得ぬわけである。一例を擧げると一九二八年五月に公布された新選擧法によるに、議員の定數は四百名であつて、これが何れも政府の選拔した者であり、之を單に國民に提示して、その贊否を問ふといふにすぎないのである。一八八二年の選擧法では、選擧資格は二十一歳を完了し、三年間國民學校の教育を受けたるか、乃至之と同一の試驗に合格したるものに限られてゐたが、一九二八年のものによると、滿二十一歳以上の男子、又は十八歳以上の既婚男子が一定の財產を有するものとなつてゐる。何れにしても選擧權有資格者は、千人につき

二十人といふ比率であつて、候補者と議員、政府との間に醜惡なる腐敗行爲が取りかはされてゐるのである。

一方イタリヤに於ては既に早くより政敎の分離が行はれ、從來ローマ敎會の權威は實に大なるものであつたけれども、その後は日に月に敎會國家は沒落途上を歩んだ。それはイタリヤ愛國者にとつては、敎會は最も非愛國的なものであつたから。これに反して敎會の側よりすればもとより敎會以外の權力は、イタリヤ擾亂の淵源であつた。かくて國家が敎會に對して無關心であり、その反對に敎會も亦國家に對して無關心であることは、一國の文化、思想、政治等の頽廢を招く基とこそはなれ、一國の發展向上を妨げられる事が多いのである。

三、歐洲大戰への參加事情　フランスの有名な萬年外相といはれた故ブリアンが、「靑年時代に社會主義者にならぬ奴は馬鹿だ。だが年取つてからもまだ社會主義にこびりついてゐる奴は一層馬鹿だ。」と言つた言葉を、文字通り實行したベニト・ムツソリニーは、歐洲大戰の始まつた當時迄は社會主義者であつた、然るに歐洲大戰の勃發を契機として、彼の精神は次第に愛國的情熱に充たされ、遂に一九一四年秋に至るや彼は社會主義を抛棄して、國家主義へと轉向したのである。一九一四年十一月十五日彼の某紙に掲げた論說に曰く「時は確にういやつである。

しかし屢々此時と反對に行動する事が必要である。現在のやうな一般的淸算の時期に於て、詩人の云ふが如くあはたゞしく過ぎ去るものは死人のみではない。否、生ける者こそ死人よりもよりあはたゞしく過ぎ去る。待つといふ事は、後れて到達し、最早や如何ともなし難き既定の事實に直面することを意味する。如何に嘆くとも無効であつて、之を消滅することは出來ない。……今や保守的社會主義の中立論者が何と言はうとも、重大なる問題が解決せられなければならない。歐洲社會主義の運命は、此戰爭の齎すべき結果と緊密なる關係にある。無關心といふ事は歷史並に生活から遊離することである。創造のために勞働し、社會革命のために動かないでよからうか、否……吾々は人間であり、生きた人間であり、たとへ乏しきにせよ歷史の創造に吾人の貢獻をさゝげる事を欲する。………吾々社會黨員は商人的乃至ジョリッチ的改良主義の沈滯期は別として、新しき伊太利の生々とした力を代表する……吾人は戰爭を欲する。」(土方氏「ファッシズム」三〇頁)

爾來ムッソリニーとその一黨は、猛烈な參戰運動を起し、その運動は全イタリヤに波及して、つひに政府は聯合國側と有名なロンドン協約を結び(一九一五・四・二六)五月三日には早や獨墺二國との同盟關係の斷絕宣言を行ひ、更に五月廿四日には愈々墺洪國に對して宣戰を布告し

た。この間國論は勿論参戰と非戰の兩端に分れた。いふ迄もなく社會黨は當然に非戰論を唱へ、敢然として参戰論に肉薄したのであつた。にも拘らずイタリヤは然かも何故に、獨墺側との豫ての同盟を破棄して英佛聯合國側に味方したか。そこにはイタリヤの傳統的精神が強く動いたからである。

四、人口問題と植民地問題　三十一萬平方キロの面積を有するイタリヤには、耕地として三千三百エーカー、即ち全面積の四分の三を有つてゐる。併しこの耕地から收穫する主食糧(小麥)は、わづかに北方地方に限られ、從つて全國からの麥の產額は五千萬クインタル內外である。伊國民一年間に要する麥の量は六千五百萬乃至七千萬クインタルと稱せられるから、到底自給自足といふわけには行かない。一方イタリヤの人口は既に述べた如くに、一平方キロに百三十四人といふ素晴らしい密度を示してゐる。凡そ全世界に於て國土の狹小に引替へて、人口過剩に惱むものは、恐らく日本とイタリヤであらう。

國土の狹小、人口の過剩！　これが解決の方途には限りがある。第一には廣大なる——少くとも過剩人口を賑けるだけの——植民地獲得、第二には國內に於ける農工業の改良進步を促進する事による食糧問題の解決、第三には人口制限換言すれば產兒調節等であらう。是等の中第

二の方法は最も可能性を存するだらうけれども、永續性に乏しい。第三の方法は可能性はあり得るだらうけれども、危險率が强く伴ふ。さうかと言つて第一の方法も又困難と危險の隨伴するものである。

イタリヤは絶えず大いに海外移民を奬勵して、その數は年々平均三十萬に達してゐる。けれども尙年々二十萬の人口が增加しつゝあるといふ。食糧を始めとして工業原料の資源にも乏しいイタリヤは、如何にしてこの重大問題を解決せんとするか？

國民經濟的にその土地資源に於て甚だしく惠まれず、その上人口過剩、食糧品缺乏に惱みつゝも、海外發展の途は塞がれてゐるイタリヤに取つては、先づ第一に植民地の獲得と過剩人口の移民とが、最大急務でなければならぬ。去る歐洲大戰の開始に際してイタリヤが聯合國側に組したのは、實にアドリヤチツク海に於ける制海權や、その沿岸地方に於ける植民地獲得に關して、ロンドン條約が有利に締結された爲である。それは極めて自然な歸結と言はれ得るであらう。

五．インターナシヨナリズムへの反動　イタリヤ軍は參戰後可なり目醒しい活躍を爲した。デイアス將軍の報告する所に從へば、イタリヤ軍は「世界最强の一たる軍隊を擊滅した」ので

ある。而してその大戰に際して拂つた犧牲は、聯合國側各國のそれに比して、實に大なるものであつた。卽ちイタリヤ軍の死亡者は六〇萬、重傷者は一〇〇萬而して永久の不具となつた者は二二萬と稱されてゐる。それにも拘らずベルサイユ平和條約は、決して參戰に際して爲したロンドン條約に記された如くには、イタリヤの爲に有利には締結し得なかつた。それは輕うじてトリエスト、ツレント、フユーメ、ツアラをイタリヤに解放し、一方には幾年を重ねる仇敵オーストリヤ帝國の沒落を見るにすぎなかつた。

社會主義者の一群はこの平和條約の結果を見て、得たり賢しとばかり戰前に於ける參戰論者を惡罵、嘲笑し、この機を逸せず民衆の煽動を敢行した。この時に當つて社會黨は一九一九年十一月十六日の總選擧に於て、一擧百五十人の議員と、百八十四萬五百九十三票を獲得して終つた。彼等はこゝに於て正に有產黨に對する第二黨たる大勢力となつたのである。この大成功は彼等をして無暗と有頂天に亂舞せしめた。

一九一九年十二月一日第二十五議會が開かれ、國王は時の情勢に顧みて社會施設に關する大計畫を實現すると共に、一方には自由主義制度を確保せんとする法案の審議を要求せられた。然るに有頂天に足の踏場を失つた如き社會黨員は、公然革命及びその後の社會に就いて論議

し、國王が勅語を携へて議場に臨御せらるゝや、彼等は一齊に議場を退出し、王が退席せらるゝを見るや、革命歌を高唱して議場に雪崩入る等、全く非國民的狂態を演出したのである。かゝる示威運動は國家主義者をして著しく憤慨せしめるに至り、惡罵、嘲笑さては毆打の沙汰となつて、これより以後に於ける議場は亂舞騷擾の巷と化しても、何人も之を禁じ得なかつたといふ。

六、政府の無力　かゝる狀勢に際して反社會黨を糾合し、こゝに內閣を組織したのがニッチである。併し乍ら旣に全國的に燃え擴がつた火焰は、如何に大聲叱呼し乍ら消防手を勵ますとも、到底力及ばずしてニッチ內閣は翌一九二〇年三月、一度は可なり大規模の內閣改造を斷行しては見たものゝ、同年六月には遂に無爲無策の嘲笑を殘して內閣は瓦解して了つた。一九一四年以來數年間は、政治的權力圈內から遠く離れてゐた老政治家ジョリッチが、國民派と社會黨とを提携せしめて登場した。多大の期待を背負つて聯立內閣は組織したものの、混亂其の極點に達した國內を料理すべく、之れ亦餘りにも手の出し樣がなかつた。民衆は今や政府の所爲に期待することを中止した。そして彼等自身の直接行動の上に、各々その生活を維持すべく企圖した。何故なれば武勳に輝いて凱旋した兵士も、一般勞働者も、求むれど職なく、從つて人

間として否生物としての第一本能を滿す事が不可能だつたからである。凡そ生けとし生けるものに取つて、本能の慾求ほど强きものはない、マリオ・マリアニは言つた。「一九一九年から二〇年は國内に混亂と困惑、絕望狀態が創造せられ、大部分の人民は此困苦から遁れるためには、如何なる解決でも喜んで受取つたであらう。國家も個人と同樣不安狀態が引續き、幾月も〳〵悲劇の緣、疑惑と苦痛の間におかれるならば、之等を永久に終熄するためには、より惡い事をも歡迎するであらう。例へば血腥い打擊、ピストルの發射をも歡迎するであらう。」かくて國内は全く革命的狀態に陷り、工場は職工により、土地は農民によつて各占領された。國内の混亂！　政府の無力！　危急イタリヤは何處に進み行くであらう。

七、フアツシヨの出現

一九一九年三月二十三日ミラノの一小屋には、固き覺悟を決めた五十人程の人々が秘々と集合した。屋外には數千の團員が得意の顏面と聲高らかに「ルーニン萬歲」を絕叫して示威運動に餘念がなかつた。これこそ當時イタリヤに於て狂態の限りを盡した社會黨員の群團であつた。さて數千の示威群團に比して秘々と集ひ合つた五十人の人々はそも何の爲めであつたか？　それは今を時めくイタリヤ、フアツシズムの濫觴、世界を風靡しつゝあるフアツシズム發祥の會合であつたのである。而してこの會合の首領こそ今全世界に氣を吐

きつゝあるムッソリニーその人であるが、彼は嘗つて「フアッシズムは私の心胸のうちから生れた。そして一九一九年三月ミラノの小會堂における集會のうちに生れた。否我々地中海アリアン民族の深遂にして永遠なる要求のうちに生れた」と言つた。さてこの第一回の會合に於て示された綱領は次の如きものであつた。

(1) すべての青年男女に對して平等なる權利を認める普通選擧

(2) 婦人の選擧資格

(3) 元老院の廢止

(4) 國體決定の爲の集合の召集

(5) 國有事業の勞働者による管理

(6) 勞働者の產業の技術的管理に關する參與

(7) 國民軍の組織

(8) 武器並に火藥工場の國有化

(9) 富の沒收的性質を有する累進特別稅の賦課

(10) すべての宗敎團體の財產沒收

(11) 戰時利得の八割五分の沒收

同年十一月十六日を期して總選擧が決行された。ミラノに於ての結果は、ムツソリニーはわづか四千票を獲得するに過ぎなかつたのに對し、社會黨は一萬八千票を獲得した。全體的には社會黨は、從來の五十名の議席を有するに過ぎなかつたのに、一擧百五十六の議席を獲得した。フアッシストは數名の候補者を立てたに不拘、一人も當選し得ないところの悲運におかれた。

翌一九二〇年十月三十一日より十一月七日に至る地方選擧に於ても、社會黨の進出は目醒ましいものがあつた。それがために二十六縣並に二千百六十二町村に於ては、行政權が中間黨より社會黨の手に移された。かゝる大勢を看取した反動的有產者は、この地方議會の赤化に非常なる恐怖を感じて一齊に攻擊の矢を放つた。更に一九二一年五月十五日に總選擧が行はれた。そしてその結果に於てフアッシストは三十名の議席を得たに對して、社會黨は百二十三名を獲得した。

一九二二年八月一日に全國鐵道從業員の罷業が勃發した。フアッシスト義勇軍は時を移さず出動して之を破つた。次いで市街戰がミラノ、ボロニヤ、パリ、パルマ其他の都市で行はれ

た。そのために起つた鐵道の破壞、交通の杜絶、婦女子の死亡、物資の缺乏等全國は實に混亂狀態に陷つた。しかし時のフアクタ內閣は之を如何とも爲し得なかつた。ムツソリニーは此の樣を見てフアクタ內閣に向つて「議會の速時解散を斷行せよ、然らずんば內閣を總辭職せよ」と迫つた。フアクタはその双方共之を拒絕した、その後十月に入つてムツソリニーの配下黑シヤツ隊が全國の小都市を占領し、ローマ附近にゐた黨員が首都ローマに進擊せんとする形勢を見るや、流石のフアクタも時の流れに抗するの不可能なるを覺つて、內閣をなげ出して終つた。かくて十月三十日ムツソリニーは電報によつて組閣の大命を拜受し、此に世界最初のフアツシズムによる政治が創建せられる事となつたのである。

第二節　フアツシズムと歐洲大陸

一、スペインのフアツシヨ革命　一九二三年九月將軍プリモ・デ・リベラは、自己に屬する部下の軍隊を急擧總動員した。その目的は一擧に政府を打倒して、同將軍獨裁の政府を建設するにあつたのである。併しそれには次の如き深い事情が存してゐたのである。

歐洲地圖を披見する時に、何人もヨーロツパ大陸の西南端イベリヤ半島の中に、その昔海外に

雄飛活躍した所のスペイン國と、ジブラルタル海狹を隔てゝ、その對岸にモロッコなる一小國を發見するであらう。今此處ではこの兩國の歴史的關係を說述する餘裕を有たないが、併し地圖を一見した所によつても、スペインに取つてモロッコなる一小國が、實に重要なる關係を有するだらう事は理解せられる。然りモロッコ問題は最近に至つて、特にスペインに惱みの種子を蒔いてゐるのである。それは一九世紀以來フランス、イタリヤ迄が此の問題に關係をつけて來たからである。しかも最近ではアメリカ迄がおせつかいをするに至つたのであるから、その苦惱や思ふべしである。かくてスペインに取つては如何なる努力を支拂つても、このモロッコなる一小國を自己の保護下におく必要がある。然らされぱフランスは得たり賢しと、直ちにこゝをば占領するに違ひない。かくて腹背に敵をもつ事はスペインの到底堪え得られざる所である。それ故に歴代のスペイン政府は苦しき財政の中から、常に巨額の軍事費を支出してモロッコ討伐軍の派遣を怠らなかつた。

驚くべし。かくも政府と國民とが永き年月巨額の軍費を支出し、忠勇愛國の軍人よと賴みしにも不拘、その滿腔の信賴をかけられた筈の軍人は、實はモロッコ討伐に血稅を以てするのではなくて、モダーンカルメン等と戀を語つて、甘き夢を結んでゐたのであつた。國民の怒りは極

度に達した。責任ある將軍數百名は捕へられて要塞に監禁された。

更に驚くべき事實がある。軍人が出征すべくして出征せず、モダーンカルメン等と甘き夢路に戀通はせてゐた裏には、巨額の武器や彈藥を外國から買入れながら、實はそれが軍隊の手に渡らずして、發砲する以前に、早くも煙と消えて姿は見るべくもなかつたのである。奇怪！奇怪！それは一體どうした事か。そこには國民に對する責任は一切軍人に着せながら、知らぬ顏の半兵衛を決め込んだ、ずるい吸血否吸彈鬼がゐたのである。何人？ それは何處の國にも慢る私腹肥やしの惡政治家である。

成る程モロッコ討伐に關する不敗の責任、その一半は軍人にも存する。併しそれは軍人の全部では勿論なかつた。又軍人が斯くの如き狀況におかれたは、全く頽廢腐朽せる惡政治家の爲である。斯うその原因が明かになつて來ると、名を惜しむところの軍人は承知しない。する堪忍は誰もする、ならぬ堪忍袋の緒が切られたのである。これ卽ち冒頭に記したプリモ・デ・リベラ將軍の武力獨裁へ突き進むに至つたわけなのである。

かくて一度武力獨裁の政治を現出するや、獨裁官プリモ・デ・リベラはその始めはよく國民の輿望を荷負ふて之を成したけれども、惜しいかな彼は固より政治家ではなかつた。遂に財政問

題に逢着するに及んで、六年間の獨裁官たる地位を投げ出して、末は何處外國へと落ち逃れてしまつた。其後迂餘幾變遷、國內には嵐の如き共和政治の要求が渦き流れた。そして誇り多きブルボン家、嘗つてはマリー・アントアネツトの盛時に繁榮の極みを盡したブルボン家も、アルフオンゾ十三世陛下を最後として、一九三一年哀れなる最後を殘して、王家沒落の夜途を一路パリに蒙塵せられたのであつた。

かくて慌しき年月の流れの間に、王政より獨裁政治へ、獨裁制より共和制へと變つたスペインは、今や貴族階級に奉仕し續けた封建的社會から脫出して、こゝに漸く近代的な資本主義社會を作出し、階級の不平等を撤廢して、四民の平等と自由を獲得謳歌するに至つたのである。

二、ポーランドの獨裁政治　一九二四年ポーランドには不可抗力による大問題が惹起した。異常な農作物の不作卽ち之れである。それがために當然農村の大窮乏を招來して、ポーランドの財政は極度の困難狀態に陷つた。そこで當時の政權を掌つたグラブスキー內閣は、貨幣價値の下落を救はんがために金融涉干政策を決行したけれども、救濟の曙光だに見る態はずして、遂に內閣は瓦解して了つた。次いでスクルチンスキー內閣が一九二五年九月に成立して、專ら財政立直しの目的の下に緊縮政策を取り、その一として軍事費の削減を爲し、その二として國有

鐵道の人員淘汰を敢行せんとした。ところが時恰も對露關係の逼迫と、失業問題の立場とから、軍部と一般大衆から非常なる反對攻擊を受け、爲に社會黨出身閣僚の辭職問題となり、遂にスクルチンスキー内閣は、瓦解の運命をたどる有樣となつた。次いで起つたのが前内閣の右翼派に對して、中央派聯合になるヴイトス内閣であつた。

議會政治の無力なのと政黨の腐敗とは、苦心慘憺の揚句折角獨立したばかりの新興ポーランド、その將來の發展と安全とを確保するためには、餘りに憂を催さゞるを得なかつた軍人は、單なる憤慨のみには止らなかつた。それに加へてヴイトス内閣はその成立に際して、その基礎の薄弱なると腐敗内閣だとの理由で、彈劾したピルスヅキーに對して、壓迫し來たつたので、この機に乘じて軍部の一團は直ちにピルスヅキーを先頭に立てゝ、遂に首都ワルソーへの進軍を開始したのであつた。かくて三日間に亘る市街戰が首都ワルソー＝展開せられた。大統領ウオイシエコウスキーと、首相ヴイトスとは、逃亡してピルスヅキーの軍はこゝに完全にワルソーを占領し、軍事的獨裁への途が打開されたのである。併し政權獨裁化への原因には他にも重要なる問題を有してゐる。

ポーランドにはその全人口の三分の一に相當する異民族がある。その中ウクライナ族と獨逸

民族とは、常にポーランドにとつての一大暗礁としての存在である。累代の政府は心怠りなく之等民族の懐柔策に出るけれども、失敗を繰返して却つてウクライナ民族の、反ポーランド運動を激成せしめるの結果に立到つた。それ故にポーランド政府は一九三〇年の後半から、對ウクライナ政策を一變して、嚴然威壓政策を以つてのぞんだ。かゝる態度は著しく政權の强化と獨裁化への導因となつたのである。又對露關係は常に惡化の狀態におかれてゐる。これは既に歷史的に除き難い運命にあるのであるが、最近の狀勢は特に對露關係に於てロシヤの軍事的、經濟的建設の發展に伴ひ、益々その度を尖銳化しつゝあるのである。

この如き對外的、そしてそれは又同時に國內的情勢の急迫は、當然軍事豫算の緊縮を極度に拒否するに到らざるを得ない。殊にピルスヅキー政府にとつてさうでなければならぬ。かくの如くしてポーランドに於ては、政權の獨裁化としてのファショ化は益々强化しつゝあるのである。

その他今や中央ヨーロッパには、幾多の國々がファッシズム化傾向を示してゐる。ギリシヤ、アルバニヤ、ポルトガル、ブルガリヤ、ユーゴー・スラビヤ、オーストリヤ、チエッコ・スロバキア等皆さうである。殊にその最も强烈に動いてゐるのがドイツである。英佛にもその動きがほのかに見えてゐるのである。がこゝではこの位に止めておくこととする。

第三節　全世界に及ぶファッシズムの影響

一、ファッショ南米に飛ぶ　由來南米は周知の如く十一ヶ國の存在を以て成つてゐる。曰くエクアドル、コロンビヤ、ベネズエラ、ギアナ、ペルー、ブラジル、ボリビヤ、チリー、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ、ウルグアイ卽ち是れである。是等の中コロンビヤ、ベネズエラ、ギアナ及びウルグアイの四國を除いては、わづか此處一兩年の間に皆政治的ファッショ革命を捲き起してゐる。不平か？　流行か？　そも野望か？

第一に先陣を預つたのはボリビヤである。同國は豫てより共和制を以て高原地方に存在してゐた。然るに大統領エルナンド・シーレスは、共和制憲法の存在を無視して、その獨裁の下に同國を支配してゐた。一九三〇年の夏國民の不平は遂に炸裂した。そしてわづか一週間の鬪爭の後には新政府が樹立された。その後の國内は勿論多事多難の連續であつたが、本年の正月が訪づれると同時に新憲法が確定され、これによる新大統領も選擧されて漸く新政の緒に就いた。

續いて一九三〇年八月にはペルー、同年秋にはアルゼンチン、十月には珈琲の國ブラジル、越えて、一九三一年十一月にはチリーの硝石に火がついた。次いで赤道直下はエクアドル、更に

パラグアイへと暑い國に熱火が燃え上つた。而して是等七ヶ國に起つた革命の首領が何れもそろひもそろつて軍人であり、その望む所は立憲制であることは注意すべき所であらう。

二、東洋の天地動搖す　東洋？　日本、そして黄色人種、歐米人の頭には槪してかう響くといふ事である。まことに然かある事であらう。東洋の天地は廣い。國の數も少くはない。二十指を以て屈せられる程ある。

東洋？　日本そして黄色人種・一面から考へると實に我々日本人は誇らしい。肩身が廣い。併し反面を思ふとまことに情ない。何故か、それは指を屈する二十の國々はあつても、眞に獨立して歐米白人に對抗し得る國がないからだ。それどころではない、殆んど大部分が白人の支配下にあるからだ。否切齒し叉腕を扼しつゝも、彼等の支配下に服さねばならぬ狀態におかれてゐるからである。併し乍ら不當な支配の永く續くべき道理がない。

一九三〇年一月一日、葉末にはまだ水晶の玉が光つてゐる朝まだき、萬雷の如きひゞきがけたたましく靜かなる空氣を破つた。こはこれ印度の聖雄ガンヂーが、第四十四回國民會議の席上に於て提出した、完全獨立「プールナ・スワラヂ」に對する民衆の母國萬歲の雄叫びであつたのだ。越えて二十六日の獨立記念には次の如き宣言が、國民會議執行委員會に依つて發表せ

られた。曰く、

「印度民族は他の總ての民族と同じく、自らの自由を確保し、自らの勞働の成果を收受し、自らの生活の資料を獲得して、自らの民族的發展を遂ぐべき不可讓的權利を保有してゐる。從つてもし政府にして斯くの如き人民の生活權を奪ひ、彼等を不當に壓迫し迫害する場合には、人民はこの政府を變更し、若くは廢止するの權利を有する。印度に於ける英國政府は、單に印度人の自由を奪へるのみならず、その基礎を民衆の搾取の上に置き、經濟的にも政治的にも、文化的にも、精神的にも、多年印度を荒廢せしめ來たつたものである。かくて我等は印度に對する英國の繫縛を切斷し、プールナ・スワラヂを獲得せざれば已まざるものである。我等は國土をかくの如く悲慘ならしめた政治を、これ以上存續せしむることは、人と神とに對する罪惡なりと信ずる。然も我等は我等の自由を獲得するための、最も効果ある手段として、決して暴力に出るべきでないことを認める。故に我等は一切の奉仕的服務を英國政府より撤回し、納税拒否を含む非暴力的反抗のために準備せんとするものである。我等は若し我等が暴力を行使せずして、英國政府に對する一切の協力を拒否し、納税を停止することに成功するならば、かくの如き非人道的なる政治は、必ずや終焉を告げるであらうことを確信する。故に我等は國民會議がプールナ・ス

ワラヂ建設のために決定した、逐一の方針を遂行することを、玆に嚴肅に決議するものである。」

かくてガンヂーは次の如き九ケ條の條件附平和的商議の開催せられん事を、政府に對して要求したのである。時はこれ三月二日の事であつた。

(1) 酒類の禁止
(2) 地租の半減
(3) 鹽税の廢止
(4) 軍事費の半減
(5) 高級官吏の俸級半減
(6) 凡ての政治犯人の釋放
(7) 政治的檢擧の廢止
(8) 煽動的集合禁止條例の撤去
(9) 國外追放者の歸國許可

併し乍ら斯る要求は到底容れられる筈なくして直ちに拒絶された。そこでガンヂーは彼獨特の反抗運動をまき起し、食鹽の專賣法を葬り去れ、全國工業諸會社のストライキ、完全なる英

貨のボイコット、租税の不納、官公署、學校、法廷等に勤務する印度人への辭職勸告等、凡そ彼等にして可能なる非暴力的反抗を決行したのである。それが爲にガンヂーを始め共指導的地位にあつた者は勿論、九ケ月間に捕へられた者は七萬の多きに及び、毆打又は銃殺の厄に犠牲となつた者は、數千人の多きに達したといふ。けれども眞に心の内から發する叫びであるからには、外からの彈壓によつては到底納まるべくもない。印度民衆の反抗は益々强烈ならんとしたので、遂に政府はガンヂーを出獄させ、ロンドンに第二次圓卓會議を開いて事を納めようとした。而してこの會議は一九三一年の秋から始めて年末迄續いた。ガンヂーの要求は又もや容れられなかつた。會議の最終日、彼は左の如き演說を殘して歸國の途に着いて終つた。

「この會議が失敗に終つたことは、余としては何等の遺憾とする所がない。けれども余の懸念とする所のものは、この會議の結果がやがて印度に來らんとする怖るべき彈壓政策となつて、現れはせぬかといふことである。余は好意的、樂觀的態度に於て英國と協力し、以て印度問題を滿足に解決せんとして渡英したのであるが、今やその努力は徒勞に歸し、惡が善を征服する結果となつた。それ故に余は印度に於て如何に英國の飛行機が空をとび、タンクが道を走らうとも、また如何に機關銃が活動しようとも、數億の印度人に不服從運動開始指令を發せざるを

得ない。而して印度人は少年も、青年も、老人も、亦婦人も母國の自由のために、喜んで投獄をも、銃殺をも、死刑をも、そして笞刑をも歡迎するであらう。」

彼が昨年の暮もおしつまつた二十八日、ボンベイに上陸した時には、既に彼の演說した通り印度に於ては、不服從運動が正に起らんとしてゐた。一九三二年といへば本年であるが、その第三回獨立記念日前二十日間に於て、官憲のために捕へられたものは無慮數萬に達し、有罪の宣告を受けたもののみでも、七千人の多きに及んだといふ事である。併しといふ言葉が後から出てくる。全印度國民の覺醒による國民解放の運動は、かくて終熄するであらうか、否印度民族獨立といふ朗らかな聲をするのは、最早や時の問題となつてゐる。

一九三〇年二月マニラ市のグランド・オペラ・ハウスには、次の如き熱聲の絕叫が繰返された。

「米國は米國自身の獨立宣言の主旨、及び米國憲法の精神に自ら叛くことは出來ない。從つて比島民の獨立要求を無視する事は出來ない。」

「今や民族自決主義は世界を席捲してゐる。比島の獨立要求もまた當然である。」

「比島民は外國の支配下に成功するよりは、自らの政治的自由の下で失敗した方が、尙且つよ

り多くの利益を受くべき狀態にある。」

「世界政治の舞臺は今や太平洋に移動した。故に比島を獨立せしむることは、危險であると主張する者もゐるが、比島よりも政治的に不準備なる國民さへ近年獨立して、その體面を維持しつゝある實狀を何と見るか！。」

「比島獨立大會の目的は二つある。一は比島の獨立要求を强調することであり、こは啻に獨立を獲得せんが爲のみならず、その獨立を維持せんがために、比島の凡ゆる勢力と分子との組織を促進することである。」

右は一九三〇年二月二十三日フイリツピン獨立大會開催の際に於ける、各代表の絶叫であつたのである。而して之に先立つて米本國に於ては、既に比島獨立問題が議會に於て討議されつゝあつた。そして米國上院領土委員會は、比島獨立に關して四箇の決議案を提示した。卽ち次の如し。

(1) キング案　比島獨立案通過後十八ケ月以內に同島を獨立せしむべし。

(2) ピンガム案　米人八名から成る會議を一九三〇年九月十五日マニラに開き、比島の將來に關する硏究報告を米國議會に提出せしめよ。

(3) ブルツサード案　比島の米國に移入すべき砂糖は平額五十萬噸を越えざること。

(4) ヴアンデルグ案　比島は無關稅の米國市場がなくても、經濟的に獨立し得るか否かの能力を試驗するため、ある一定期間だけ比島に關稅自主權を與ふべし。

比島民は何をおいても、先づ比島の獨立權を認めよと肉迫し、この米國議會に派遣されてゐたギルは「比島一千三百萬の島住民は、獨立を希望することゝに數世紀（筆者註―比島は一八九八年の米西戰爭により米領となつたものであるが、比島獨立の運動は既に早くスペイン領の時代、卽ち數世紀以前から存在したものである）米國は公平正義に立脚して、宜しく比島民に對する公約を履行し、比島民の熱望を實現せしめ、米國自身が血を以て範を示した獨立自由を、比島民にも附與すべきである。」と論破した。

かくて幾多のまはりみちをした後、米國下院では三百六十票對四十七票の、實に壓倒的大多數の同意によつて、フイリツピン島獨立法案は通過した。けれども未だ後に殘された問題がある。それは米國國務長官の書翰問題と、も一つは折角下院は通過しては見たものゝ、果して上院が文句なしに之を通過させるか否といふ事である。筆者は印度獨立運動の最後に於て「併し」といふ語を用ゐたが、こゝにもそれと同樣「併し？」と挿入する事を敢てする。

東洋の天地に漲る風雲は、更にトルコ、ペルシヤ、アラビヤに及び、直接我國と重大關係を有するものとして滿洲問題がある。それどころではない。我等の帝國日本自身に於て、現實に前途多事なる雲行の渦が低迷してゐる。けれども之等については今此に述べるよりも、今暫らくの經過を觀取した後にする事が、より明瞭となり、より正確さを傳へ得られると信ずるが故に割愛靜觀することとする。

一言注意を要することは、南米に於ける政治上の變革は、すべて立憲政治へのものであつて、政治形態そのものは所謂フアッシズムに從ふものではないことである。併しかゝる變革の機運は當にフアッシズムの影響によつたものである。又印比の兩獨立運動も決してフアッシズムそのものではない。けれどもフアッシズムを明解するにはかゝるものと比較する時に、一層效果あるものと考へて、わざとこゝに引述した次第である。誤解なき事を切望する所以である。

第二章　フアッシズムの運動

第一節　鼻祖ムツソリニーの運動

一、フアッシズムの起源　「フアッシズムは私の心胸のうちから生れた。そして一九一九年三月ミラノの小會堂における集會のうちから生れた。否我々地中海アリアン民族の深邃にして永遠なる要求のうちから生れた。」

ベニトー・ムツソリニーが嘗つてかう言つた樣に、フアッシズムは一九一九年三月二十三日イタリヤはミラノの一小屋に於て、疑ひもなく一代の英雄兒ムツソリニーによつて誕生したのである。さてこのフアッシズムの誕生によつて爲さんとする。ムツソリニーの目的は何であるか？　それは結局に於ては政權の掌握であり、獨裁强力なる政治の遂行ではあるけれども、ムツソリニー最初の目標は第一にはイタリヤの對外發展であり、第二には國內共產主義者の排擊撲滅にあつたのである。既に述べた如くイタリヤはその國土の大さに比して、此處に住居する人間の數がその產業經濟によつては、過剩の狀態（ムツソリニーに依れば倘不足であるが故に、生め

よ殖せよと他の國々では産兒調節で騒いでゐる時に、大いに增殖奬勵をしてゐる）にあるから、之を海外に移民して大いに國力の發展を期しやうといふのである。ムツソリニーの參戰運動及びヴエルサイユ平和條約後の愛國運動の一は、實にその根本を此處においてゐるのである。以下この運動の大要を述べるであらう。

今筆者は此處に論語を持ち出すわけではないが、大體人間は歳三十を數へる頃になると、その思想が固まるものであると言はれるが、心理學的論證は別として歴史、傳記、そして筆者の經驗では先づ肯定し得られる。彼ムツソリニーも又この一般的經過を踏んだのである。彼は生れ乍らにして社會主義の洗禮を受けた。その後彼の生立ち、生活境遇は實に數奇樣々であつたけれども、丁度歐洲大戰勃發の頃、彼は三十二回目の春を迎へてゐた。生れ乍らにして社會主義の洗禮を受けた彼にも、生活境遇のそれの如く三十年の歳月には思想的に又樣々な影響のあつた事であらう。兎に角歐洲大戰の開始を契機として、彼に愛國的情熱が血の循環を強くしたのである。そして一九一五年には動かし得ない決心が彼の進路を確定した。彼は奮然起ち上つた。そしてイタリヤの理想を實現し、その地位を確保安定するためには一日も早くイタリヤは中立的態度を蹴破つて、獨墺側に戰火を送るべきであると論破した。その後の彼及びその一黨

は猛烈な參戰運動を惹起し、日一日と運動の效果は擴大强化されて遂に全國に迄波及した。ために政府もその決心を固めて、一九一五年四月廿六日には聯合國側との間にロンドン條約を結び、五月廿四日には、到々獨墺側に對して宣戰を布告した。政府が未だ宣戰を布告する二旬程前、五月一日のポポロ・デイタリヤ（ム氏創刊のイタリヤ國民新聞）は次の如く論じてゐる。「國際主義は死した。何となれば今日に於ては國際主義者は少くとも二つある。一つは侵略するものであり、他の一つは防禦する國民である。均衡が回復せられ、正義が行はれるまで國際主義は、最も馬鹿々々しい氣狂沙汰に過ぎない。」

かくて一度イタリヤの參戰が決定すると、彼は單なる一兵として戰線に起ち、勇敢に戰場を馳驅して實戰陣營內に於ける勇者としての名を爲した。ために身に負ふた創傷は實に四十二箇所に及んだといふ事である。かくも目醒ましい勇士は一方に於ては、戰暇を利用しては、陣營內にあつて尙筆に口に反戰運動に對抗して、イタリヤ國民の愛國心、戰爭熱を鼓吹した。殊に彼は身に四十二創を負ふて後方に送られ、病床にあつたときは彼一流の力筆をふるひ、ポポロ・デイタリヤを通じて、大いにイタリヤ人最後の愛國心喚起に努力した。

皇帝は次の如き勅語を下し給うた。

「市民諸君よ、兵士諸君よ、凝つて一つの軍團となれ！」

一九一八年十一月三日イタリヤ軍はイゾンゾ河の戰線まで敵軍を撃退する事によつて、辛うじて戰勝の名を擧げ得た。そして一九一五年が訪れてベルサイユ平和條約が結ばれるに至つた。賠償問題、ドイツ領の處置、而して同盟國の處分等々。しかしこの平和條約に於て、イタリヤは決して同國のために有利な結果を得なかつたといふのは、もともとフランスとイタリヤは敵國同志である。それ故イタリヤの要求（ロンドン條約）はフランスの强硬な反對に合つて削減されてしまつた。然も時の政府ジョリッテは之を如何とも爲すべき手段を持たなかつた。

輿論は沸騰し、國民は激昂した。大戰に於てイタリヤの拂つた犧牲は實に死者六十萬、重輕傷者百萬、永久不具者二十二萬と言はれるではないか。然かも何等の之に匹敵すべき報償をも受ける事が出來なかつた。それどころではない、戰功に輝く軍人は己が軍人であることさへも秘し隱さねばならぬやうな侮辱を浴せられた。軍人としてこんな侮辱に堪えられるだらうか、たとへ祖國の參戰が誤つてはゐたにしても、軍人は自ら勝手に戰つたのではない。國家の命に從つて身命を抛つて戰つたのである。然るに平和克服して歸國してみれば、血をもつて護つた祖國は意外にもボルシエビイキに占領されてゐた。そして如何にボルシエビイキだとて何を軍

人を侮辱する理由があらうか。この不平不滿は直ちに彼等軍人社會に澎湃として漲つた。一方ムッソリニーはそのファッシスタを創建する時から、彼の目標の一は共産主義の撲滅にあつて、絶えず彼等と抗爭を續けてゐた矢先である。軍人とムッソリニー？　こゝに同類相憐むといふ言葉は妥當ではないかも知れない。併し軍人とムッソリニー？　その共同の敵は共産黨である。こゝぞとそこを早くも見てとつたのがムッソリニーである。彼が國粹主義を高揚し、負傷せる一兵士ベニトー・ムッソリニーとしてファッショ軍團の組織を提唱した時、不平の忍苦にあつた軍人が、時を得たりと彼の下に馳せ參じたのは全く當然の歸結であり、ムッソリニーに取つては實に百萬の援兵でなければならぬ。

一方參戰反對派であつた社會黨（共産派）は、他國よりの宣傳資金の流入によつて、盛んに無産階級を煽り、絶えず非國民的態度を示しつゝ、その勢力を擴大し、戰前に於て既に下院には五十六の議席を占めてゐた。同時に彼等は有力な新聞紙を支配する事によつて、五十萬の組合員を有する勞働總同盟と既に連繫を有してゐたのである。社會主義的思想は單に之等勞働大衆にのみならず、漸次有産階級、知識階級にも擴げられた。かくて一九一四年には五萬の支持者を有するにすぎなかつた社會黨は、一九一九年に至つては二十萬に增加した。右と同一の期間

に於て勞働總同盟は五十萬の組合員から二百萬に増加した。又議會に於ける社會黨所屬の議員の數は實に百五十を越える有樣であつた。それがために彼等社會主義者及びその政黨は、こゝぞとばかり一齊に政府を論難攻擊し、この大成功に狂喜した社會黨は、まるで政權を掌握したかの如くに自惚れて、公然革命及び革命後の社會について論究を進める有樣であつた。國王が議場に臨御せられ勅語を賜らんとするや、彼等は一齊に退場を敢てし、更に王が議場を退席なされるや、革命歌を敢て高唱し、議場に雪崩れ入る等、全く狂態の限りを盡した。これに刺戟されてイタリヤ共產黨はいたく動いた。そして南歐の血に燃えたイタリヤ人は今にも共產主義革命を起さうとし、ストライキは各地に蔓延し、一九一九年四月にはロシヤ革命讃美のためのストライキが、二十四時間も首都ローマに於て續けられた。五月には八萬人の交通勞働者が、その賃銀値上の要求がもととなつてストライキに移つた。かくて記錄せられた所のストライキのみでも、全國を通じて數百件に上つてゐる。平和會議の失敗と社會革命の煽動とは、實に全イタリヤを擧げて擾亂の巷と化したかの狀態に陷つた。政府はあつてもその威令は地を拂つて行はれず、警察はあつても無きものの如く無力であつた。

二、ムッソリニーの實際運動　以上の如き經過の下に無力なるニッチ內閣は、一九二〇年六

月迄に倒壞した。その後を繼いだのはヂヨリツチであつたが、彼も亦亂麻の現狀イタリヤの當面を處理して、よく盤根錯節を開拓し得る人物ではなかつた。

百姓一揆、勞資の衝突、工場閉鎖、工場占領、暗殺、反亂、全イタリヤを擧げての混雜と無政府狀態とは、何時になつて止まるのか豫測し難いものであつた。一般市民は戰々兢々として暗黑な世界に極度の危險不安な生活を續けた。赤色革命の陰謀は次から次へと暗躍した。こゝに於てフアツシストと社會黨員との衝突は頻りとなつて、流血の慘事は此處彼處に演出された。

ボロニヤは元來イタリヤ赤色革命の中心地として、共産黨の本據を爲してゐたのであるが、たま〳〵その市會の混亂に乘じて爲した社會黨員の横暴は、流石の市民をして憤激興起せしめ、市民はフアツシストを援助して市街戰となつた。一方警察側はその無力なる處へ市民及びフアツシストの加はるところとなつたに依つて、急にその力を増大し、三者共同の力によつて此處に主義者の掃滅を敢行し、全く共産勢力を根絶してしまつた。

フアツシストと共産黨員との交戰は漸次全國に波及頻發した。赤色革命主義者が跋扈すればする程、社會黨の横暴が加はれば加はる程、市民に對するフアツシストの人氣は高まり、その進出も著しくなつた。一九一九年の總選擧に於て社會黨員は百五十の多數を獲得したのに比

して、ファッシスト黨は一人の當選さへ見得なかつたのである。然るに一年を隔てゝ一九二一年五月の總選擧に際しては、社會黨は百二十名に減じたのに對して、ファッシスト黨は一擧に皆無から三十三名の議員を獲得するに至つた。かくて同年十一月六日には、ローマに於てファッシストの大會が開かれ、此處にファッシスト團は純然たる政黨となり、本大會以後「國民ファッシスト黨」として堂々名のりを掲げたのである。

一九二二年六月社會黨は全國勞働總同盟を動かしてゼネストを宣言した、ストライキは八月一日先づ交通機關から初つて、漸次他の部門に及ばうとした。ファッシスト義勇軍はこの時直ちに出動して之をうち破つた。市街戰がミラノ、ボロニヤ、パリ、パルマ其他の都市で行はれた。そのために鐵道の破壞、交通の杜絶、物資の窮乏と婦女子の死亡となり、名狀すべからざる混亂狀態に陷入した。それにもかゝはらず時の內閣ファクタは曠日持久、全く何事をも爲し得なかつた。こゝに於てムッソリニーは手早くも全國に散在するファッシストを總動員して、汽車、電車の運轉を爲さしめると同時に、事態愈々急なりと見て八月二十三日には「議會を速時解散せよ、然らずんば內閣を總辭職せよ！」とファクタ內閣に勸告して、さて自らは全國への遊說に出發した。

之より先ムッソリーニは、ゼネストを破ると同時に一方には政權の暴力的奪取を爲さんとして、着々その戰備を怠らなかつた。十月二十四日フアッシスト黨最高幹部は、ヴエスビオス火山の麓にある一ホテルに集合した。ローマ進軍作戰のためであつた。その作戰は內外相呼應するものである。即ち內部的方法といふのは、前陸軍將校で當時、代議士であつた所のデ・ヴエツキをして、元首相オルランド、前首相サランドラを通じて現首相フアクタに辭職を勸告せしめ、一方又國王に拜謁して時局の眞相を奏上した。玆に於て全閣員は辭表を提出しても頑として辭職を拒んだ流石のフアクタも、遂に內閣を投出した。之より前數週間ムッソリーニは、彼の民主的傾向を廢棄して王政を支持すべき事を宣言し、一部有產階級並に軍人の不信を除去する事に努めた。

外部的方法としては十月二十七日夜半、ムッソリーニはポポロ・デイタリヤ社の電信室から全國に向つてフアッシスト民軍の總動員を命令した。そして五十萬の黑シヤツ軍はその夜の中に動いて、一部は首都ローマへ向つた。明くれば中秋二十八日の朝ローマの空はうるわしく晴れて靜かであつた。たゞ內閣、議會を始めとして要所が黑シヤツ軍の包圍を受けた。要所要所は軍隊、警察等の守りを受けてはゐたけれども、彼等は沈默を破らなかつた。之と同時に全國

にわたる主要都市の官公署、鐵道、郵便局は一齊に占領せられたのであつた。午前十時頃に至つてローマ市の各所には、「政府はあらゆる手段を講じて、騷擾を鎭壓するにより、市民は冷靜を守らるゝやう」との主旨が掲示された。しかし戒嚴令を施く事は皇帝の允許を給はることが出來なくて、沙汰止みとなつた。同胞相殺傷し合ふ流血の慘事が未然に防がれたのは、主として皇帝の聰明によつたものであると稱されてゐる。

三、政權獲得　十月三十日ムツソリニーは宮中からの電話により參內した。そして內閣組織の大命を拜受した。一應退下の上、七時間後には閣員名簿を捧呈して、陛下の裁下を乞ふてゐたのである。閣員には自由黨、民主黨、人民黨及びファツシスト黨の代表者を並べて、言はゞ擧國一致內閣を組織したのである。

一方ローマに駐屯する黑シヤツツ民軍からは一齊に萬歲の聲が湧いた。そして翌三十一日には七萬の彼等民軍は、ヴイラ・ボルゲーゼ公園に集合整列した。首相としてのムツソリニーは又黑シヤツツ民軍（ファッシスト黨）の長として黨員の閱兵を行ひ、續いてローマ城內を示威行進した。その一糸亂れない所の統制は、ローマ市民の絕大なる賞讃を博した。そして三日の後にはこの大部の軍隊が肅々として、帝都ローマを退出して行つた。そこには何等の手違も何等

の混雜もなかつた。その爲に市民の信頼は一層倍加したのであつた。

十一月十七日議會に於てムツソリニー最初の施政演說が行はれた。曰く

「我々フアッシストは完全なる武裝と非常なる決心とを持ち、殆んど神祕的なまでに熱心に予の命令に服從してくれる三十萬の人々を有してゐる。それ故に苟くもフアッシズムを誹謗するもの又は汚辱せんとするものあらば、予は悉く之を處罰することが出來る。予はまたこの灰色の薄暗い議場をフアシスト戰鬪部隊の野營所とすることも出來るし、議會を閉鎖してフアッシスタのみの政府を作ることも出來る。たゞ予は敢てそれをしないだけである。予は殊更に議會に反して施政しようとは思はない。しかしながら議會は自己の地位を知らなければならぬ。何故なら議會は何時でも卽時解散することが出來る。明後日にでも、或はまた二年後にでも。」

それから漸次イタリヤ民族主義の强調、反國家主義の克服を述べ更にイタリヤ當面の問題たる外交、財政、事項に關して述べた後で、

「諸君國民に對して無益なる言葉を投げかくることを止めやう。五十二の質問演說なんか餘りに多すぎる。寧ろ働かうではないか。國家の繁榮と偉大とを確定すべき、純眞なる心と神速なる頭腦とをもつて働かうではないか。――神よ、我が大膽なる勞働に勝利を與へ給はんこと

を—」と結んだ。

翌十八日には三百六票對百十六票をもつて議會の信任を得、二十五日には行政稅政、官政の改革に關し、二年間に限つて政府の獨斷專行を認むる法案が、二百七十五票對九十票の絕對多數を以て通過した。而してその最初の現れは選擧法の改正である。一九二四年四月六日新選擧法による選擧が行はれた。之によれば全イタリヤを以て一選擧區とし、全投票の二割五分を集めた政黨は、議席の三分の一卽ち三百六十五の議席を獲得する筈になつてゐた。此の新選擧法の目的は、一に指導的政治傾向を明にして、之に議會に於ける優越を與へようとするものであつた。併しこの選擧法は一九二八年に改正されて次の如くなつた。卽ち之によつて議員の定數は四百名であるが、先づ最初に十三の組合（一九二七年四月ムツソリニーは勞働憲章——イタリヤの新憲法——を發布したが、その中に「組合國家」なる文字が用ゐられてゐる。この組合の中に政府の作つた十三のシンヂケートがある。）から八百名、次に敎化團體から二百名の候補者を選出して、政府に屆出るのである、さうすると政府はこの名簿によつてその中から更に適當と認めたもの四百名を選拔して名簿を作り、之を國民に提示してその贊否の投票を爲さしめ、贊成が多かつたら四百名が一度に當選者となる仕組なのである。これ所謂比例代表法であつて、世に一國一黨派又

は一黨派一國と呼ばれる所以である。

第二節　ヒットラーの祖國運動

一、ナチスの誕生　一九三二年といへば本年であるが、その四月十日我國ならで、ドイツには政治上重大なる一事があつた。それはドイツ聯邦共和國大統領の選擧であるが、その少し前ごろにロシヤから亡命し、以前から我國にゐる所のトロツキーは、この選擧に對して次の如き豫言的批判を試みたといふ。「獨逸に於けるヒットラー運動の成否は今後の世界の政治方向を決定する。卽ちヒットラー運動が成就すれば、世界の政治はフアツシズムに向ふであらうし、又ヒットラー運動が若しも不成功に終るならば世界の政治は、マルキシズムへ向ふであらう。」と。果してこの豫言は適中したであらうか？　ともあれ選擧の結果は次の如きものであつた。

三月十三日の選擧投票數

(1)　總投票數　三千七百六十六萬票餘

(2)　ヒンデンブルグ　一千八百六十六萬票餘

(3)　ヒットラー　一千百三十二萬票餘

四月十日開票の結果

(1) 總投票數　三千六百五十八萬九千票餘
(2) ヒンデンブルグ　一千九百三十六萬七千餘票
(3) ヒツトラー　一千三百四十一萬七千餘票

註　選擧投票數と開票の結果による票數との相違は前者は豫想數であることによる。又總投票數と兩人の票數合算との間に於ける相違は、無效票や他の候補者への票數等が除かれてゐるからである。

七月三十一日にはドイツ聯邦共和國の總選擧が行はれた。而してその當選による新舊比較を示せば、

黨名	新	舊	增	減
國家社會黨	二二九	一一〇	一一九	—
社會民主黨	一三二	一三六	—	四
共產黨	八八	七八	一〇	—
カトリック中央黨	七六	六八	八	—

國權黨	三六	四一	―	五
バヴリヤ黨	一九	一九	―	―
人民黨	七	三〇	―	二三
國家黨	六	一六	―	一〇
キリスト社會黨	六	一四	―	八
經濟黨	二	二一	―	一九
農民黨	一	五	―	四

ヒツトラーは大統領にはなり得なかつた、ヒツトラー黨は絶對多數は獲ち得なかつた。併しヒツトラーの進出、ヒツトラー黨の躍進、それは實に飛躍的なものといふべきである。それは事情と數字が明瞭に物語つてゐる。ドイツ將來の政界には風雲！　陰慘！　憂鬱！　凡そ人々の好ましからぬものを豫想される。と同時に又ヒツトラー及びその一黨の活躍は目醒しきもののあらう事に注意を奪はれる。けれどトロツキーの豫言？　そして世界の政治は果してフアツシズムへ向ふであらうか？　とまれ我々は唯その成行を注意深く眺める事にするより外はない。

二つの相反する勢力が對立する場合に、不幸にしてこの二勢力の間に衝突の厄を負はされた

とすると、强は弱を制し、そのために弱は往々にして滅亡の悲運に遭遇する事のあるは、單に生物界に於ける法則のみではない。國と國との勢力がその均衡を失ひ、政治といはず經濟といはず凡ゆる方面に於ての利害が相反する場合には、其處には不幸にも、いまはしくも戰爭が始められる。この場合何と言つても悲慘なのは、戰敗國の名を負はねばならぬ國である。歐洲大戰の終結と共に戰敗の憂目に泣くドイツは、今や內憂外患生きながらの地獄に苦惱しつゝある。一は戰債に對する苦痛であり、他の一は國內の混亂である。

ベルサイユ條約には戰敗國ドイツに取つて惱ましい數々の條項が記されてゐる。先づ第一に國土が著しく狹められた事を始めとして、千三百餘億マルクの賠償金を課せられたこと、ザール地方の聯盟委任統治となつた事、ラインランドの佛軍占領（一九三〇年佛軍の占領は解かれてドイツに還つた）それからドイツの殖民地が殆んど聯合國側に分割せられて、委任統治となつてゐること等數へ上ぐれば、尙他にもかゝる種類の條項が連ねられてゐるのである。ドイツ國民は齊しく皆之等の條約が放棄せられる事を希望してゐる。歷代の內閣は出來得る限り國民の希望達成に努力して來た。併し從來のやり方では物足りない。暴力的强硬手段に出て、即時に之を破棄しやうと意氣込むのが、ヒットラー及びその一味である。

一九一八年ドイツは共和制を施行してより以來現在尙聯邦共和國である。その共和制をしくに至つた理由については、大體次の如き說明が加へられてゐる。卽ちドイツが帝政を變革して共和制と爲したに付ては、ドイツ國民は決して當時の皇帝カイゼル・ウイルヘルム二世に對して信任を解いたわけでもなく、又決して共和制を謳歌したからでもない。聯合國側に對する獨逸の危機を救はんが爲に、カイゼル自身が戰爭の責を負ふて自ら退位なされたのである。當時幸か不幸かドイツには、ロシヤの共產革命が影響して、之が企畫を試み、正に國內にその叛亂をまき起さうとしてゐた。たとへドイツは敗戰の結果に終つたとは言へ、共產黨革命に對して之が勢力を抑壓する位は、たいしたものではなかつたのである。にも不拘カイゼルも各聯邦の君主達も、之が平定の擧に出る事なくして、一齊に退位し、逃亡し、或は屈伏して何等流血の慘を見せずに、あれ程の革命を成就せしめたのは、全く政體の變革によつてドイツの責任を輕くし、而して聯合國側の壓迫を逸脫せんとする深謀遠慮にあつたのである。

併し乍ら一度共和制となつた後のドイツ國內閣は、累代その無能振りを發揮して、正に共和制への幻滅を深からしめるの狀態であつた。こゝに於てドイツ國民は勃然として帝政時代の國情を慕つて起つた。帝政復古の運動！　それは次の二つの總選擧に依つて明瞭に現はれてゐ

る。即ち一九一九年一月の總選擧に於ては、社會黨は四十四％、中央黨二十一％、民主黨十八％、而して共和制を希望するものは、全投票の八十四％を示したが、一九二四年十二月の選擧に於ては、それ等の政黨は半減して四十六％となり、殘りの五十四％は實に帝政謳歌のものであつた。尙著明な事實は一九二五年一月二十九日には、國民は擧つて舊帝時代の國旗を掲揚してベルリン市内を行進した。それは廢帝カイゼル・ウイルヘルム二世の誕生を祝つての事である。越えて四月に行はれた大統領選擧に際しては、その傾向は最も遺憾なく現はれ、大統領として登場したものはかつて帝政時代に於て、赫々たる武勳の名將ヒンデンブルグその人であり、その票數は全然絕對多數であつた。

榮枯盛衰は人事の上に常に定まりがない。ドイツ國內に於ける政狀についても、帝政は滅びて共和制となつたかと思へば、忽ち又帝政を慕ふ國民の聲となつたのであつたが、時の流れと共產黨の活動が亦もや共和制維持の民情を作つた。ところが今度は帝政派にあらず、共產派にもあらず、さりとてその中間派でもない所の一派が孤々の聲を擧げた。即ち國家社會主義を標榜するヒツトラー一派のファッシスト黨がこれである。

一九一九年五月ヒツトラーは、ふとした事から當時ミュンヘンにあつた所のさゝやかな、そ

れは本當にわづか六人程しかない程さゝやかな存在であつた、ドイツ勞働黨を訪れる奇緣を有つた。この黨員は實に貧弱なわづか六人程のものではあつたが、併し之等六人の黨員には實に思ひ掛けない祖國のために立たうとする、實に雄々しい氣魄を持つてゐた。ヒツトラーはこの思ひも掛けなかつた黨員との談合の間に、すつかり意氣投合の情を禁じ得なかつた。そこで彼は早速ドイツ勞働黨第七人目の黨員として之に入黨した。今を時めくヒツトラーが政治運動へのふみ出しは實にこゝからの事である。

二、ヒツトラーの活動　小人數からなるドイツ勞働黨の集合に於ける演說には、ひどくヒツトラーの心を動かしたものがある。ヒツトラーは彼の「予の鬪爭」の中に以下の如く記してゐる。

「私は生れてはじめて國際金融の意義を理解することが出來た。フエダーの最初の講演を聽いた時、新しい政黨の基礎をおくべき主要題目が見つかつたぞ！　と思つた。ドイツ更生の爲に將來力をつくして鬪ふべき仇敵は敵國民にあらずして、國際金融であることが明快に理解された。私はこの來るべき鬪爭の力强い豫言をフエダーの講演の中から發見した。」

フエダーの經濟理論といふのは一言にして盡せばかうである。ドイツの經濟的破滅は一に金

利にある。それ故金融制度に於ける利子制を廢止するのでなければ、ドイツは遂に利子のために破產するより外はない。ドイツを毒するものは實にこの金融資本に於ける利子である。といふのである。

ヒットラーが入黨した當時のドイツ勞働黨は、たゞ一つ「國難打開」といふスローガンを持つてゐるだけで、之に對する特別なる理論も方法もなかつたのであるが、彼の入黨するや忽ちフエダーの經濟理論と彼の政治的理論とによつて、漸次その基礎を强固にし且つ除々に一般大衆に呼びかけたのである。その當初に於ける所謂指導原理とも言ふべきものは大體次の如きものであつた。

(1) 勞働者による國家主義によつてドイツの國難を打開し、ヤング案及びアメリカ金融資本に反對すること。

(2) マルキシズムには反對するが。××主義によつて勞働者を解放する。

(3) 武器と××によつて作り上げられた內外の××主義には反對する。

翌一九二〇年二月二十五日には國家社會主義ドイツ勞働黨（ナチス）綱領として次の如きものが一般に發表された。

(1) 我等は民族自決の權利に基き全獨逸人を一大獨逸國に結成せんことを期す。

(2) 我等は他の諸國民に對する獨逸民族の對等なる權利を要求し、ベルサイユ媾和條約及びサンゼルマン媾和條約の撤廢を期す。

(3) 我等は我民族の扶養及び我過剩人口の移住の爲に國土植民地を要求す。

(4) 獨逸國民たり得る者は獨逸同胞たる者に限るものとす。但し信仰の如何を問はず、獨逸民族の血統を有する者のみが、獨逸同胞たり得るものとす。從つてユダヤ人は凡て獨逸同胞の中に入らず。

(5) 獨逸國民たらざる者は、獨逸に於ては單に來客としてのみ生存し得、外國人としての立法的待遇を受くべきものとす。

(6) 獨逸國家の運用及び法規を決定するの權利は、獨逸國民のみが有すべきものとす。從つて我々は國家に於てたると、州に於てたると、又は自治體に於てたるとその種類の如何を問はず、獨逸に於ける一切の官公職は獨逸國民に依つてのみ占めらるべきことを要求す。我等は、性質、能力の如何を顧みずに、單に黨派的見地より官吏の任免を事とするところの議會制度に對して反對す。

(7) 我等は、國家は先づ第一に國民の生業及び生活の可能を計ることを以てその義務とすべきことを要求し、若し國家の全人口を扶養する能はざる場合には、他國民に屬する者（獨逸國民に非ざる者）をば之を獨逸國外に放逐すべし。

(8) 獨逸人に非さる者の今後の移住は一切之を禁止すべく、我等は、一九一四年八月二日以後獨逸に移住せるところの一切の非獨逸人をば、即時これを國外に退去せしむべきことを要求す。

(9) 獨逸國民たる者は凡て平等の權利及び義務を有すべきものとす。

(10) 獨逸國民たる者は凡てその第一義務として、精神的又は肉體的に働くべきものとす。但し各人の活動は全體の利益に反するを許さず、全體と抵觸せざる範圍に於て全體の利益の爲に行はるべきものとす。

(11) 不勞××の廢止及利子××制の打破を要求す。

(12) 凡て××なるものは生命及び財產上國民の甚大なる犧牲を要するものたるを思ふ時は、××による個人的致富は國民に對する犯罪と言はざるべからず。故に我等は一切の××利得の徹底的××を要求す。

(13) 我等は大經營に對して利得の××を要求す。

(14) 我等は旣に社會化せる一切の經營（トラスト）の國有化を要求す。

(15) 我等は大規模の養老施設の設立を要求す。

(16) 我等は、健全なる中流階級を建設維持し、大商館を即時××化してこれを低廉なる價格にて小經營業者へ貸與し、國家、州又は自治體の物品購入に當つては各種小營業者の立場を最も深く考慮すべきことを要求す。

(17) 我等は我國民の必要に則れる土地改革、公益の爲には土地を無償沒收するの法律の制定を要求し、一切の土地投機の廢止を要求す。

(18) 我等は公益を害するが如き行爲を爲す者に對しては、容赦なき排擊を期す。一般的國民的犯罪者、高利貸、不正商人等は、その信仰及び人種の如何に拘らず、須らく之を死刑に處すべきものとす。

(19) 我等は、物質主義的世界秩序を助成するローマ法を廢止し、之に代ふるに獨逸普通法を以てせんことを要求す。

(20) 有能にして勤勉なる獨逸人の凡てをしてより高き敎育を受けしめ、世の指導的地位に立

ち能はしめんが爲に、國家は須らく我全國教育制度の根本的改革を計るべきものとす。一切の教育機關の教育方針は須らく實際生活の必要に即し、國家觀念の養成は學校教育（國民教育）の第一目的としてその劈頭におかるべきものとす。尚我等は貧家の子弟にして頭腦特に優秀なる者をば、その身分乃至職業の如何に拘らず、國家の費用に於て之を教育せんことを要求す。

(21) 國家は須らく母子を保護し、幼年勞働を禁止し、法律によつて體操義務乃至スポーツ義務を制定して體操を奬勵し、青少年の體育を事とするあらゆる團體を大いに援助し、以て國民健康の向上を計るべきものとす。

(22) 我等は、傭兵制度を廢止し、國民軍制度を樹立せんことを要求す。

(23) 我等は、故意の政治的虛構及び新聞に依るその流布に對して、法律に依るこれが撲滅を要求す。我等は獨逸に於ける新聞發行可能條件として次の如きを要求す。

（イ） 獨逸語を以てする新聞の主筆及びその協力者は凡て獨逸同胞たらざるべからず。

（ロ） 非獨逸語新聞の發行は獨逸國家の明文に依る許可を要するものとす。而してそれは獨逸語にて印刷するを許さず。

（八）獨逸新聞に對して非獨逸人が財政的に關與し、又は之を何等の方法に依つてか支配するが如きは、一切之を法律に依つて禁止すべきものとす。而して若し右の禁止を犯したる場合には、その刑事として該新聞の發行を禁止すると共に、その關係非獨逸人をば即時國外に放逐すべし。公益に反する新聞は禁止さるべきものとす。我等は我等の國民生活に對して破壞的影響を及ぼすところの文藝一派に對して法律に依るその撲滅を期し、また前記の諸要求に反する處の催し物の禁止を要求す。

(24)　我等は、國家の存在を危うせざる、又は我ゲルマン民族の道德感に反せざる限りに於て、國家內に於ける凡ての宗教的認識の自由を要求す。我黨は黨として、一定の宗派に囚はれることなく、一の積極的なキリスト教の見地を主張するものなり。我黨は我等の內外に於けるユダヤ的物質主義的精神に反對す。我黨は公益を先にし私益を後にするといふ原則の上にのみ、我國民自らの永久的復活が行はれ得べきものとす。

(25)　我等は以上一切の實現の爲に、强固なる中央權力の建設を期し、全國及びその全組織團體に對する中央政治議會の絕對的權威を要求する。我等は國家によりて發令せられたる規定を各聯邦に實施せんが爲に、諸々の義務議會乃至職業議會を開設すべき事を要求す。我

黨の指導者たる者は必要なる場合に於てはその生命を捨てるを辭せず、以上の目的の達成の爲に邁進すべきことを誓ふものなり。

この綱領の制案者、ゴットフリード・フエダーによれば、國家社會主義ドイツ勞働黨の目的は、ドイツを復活せしめドイツ精神による「ドイツの自由」を獲得することである。この廣汎な綱領には、實に盛り澤山な原則が入れられてある。以下簡明に拾ひ上げて見よう。

(1) 政治的原則　ドイツ國はドイツ人の家である。全ドイツ民族を一團とする國民國家を建設し、この國家は力強く諸外國に對立する。

(2) 經濟政策的原則　借入資本に對する不正實な重荷を排撃せねばならない。そして產業の不平等を解放する。

(3) 財政的原則　利子××制度の廢止、租稅制度の改革等。

(4) 社會政策的原則　養老年金制度、非常時利得の沒收、住宅問題の緩和等。

(5) 文化的原則　ドイツ文化の傳統促進及び抑壓

(6) 國防上の原則

ナチスの見解によればこの綱領の實現を期するためには、三つの仇敵の存在を破らねばなら

ぬといふのである。マルクス主義、××主義、××主義卽ちこれである。そしてフエバーによれば「これは信念に充てるドイツ國民の一部が、精神的に强力なる指導者ヒツトラーの周圍に集つて、戰勝國によつて課せられた恥辱と國力の弱化、及び國內の紛亂より生じたる負傷及び國民精神の陷落から、ドイツを救濟せんとする團體組織である。」のである。

三仇敵の打破！　ナチス綱領の實現！　その後のものは何か？　それはヒツトラー帝國の建設である。世に第三帝國と呼ばれてゐる所のものである。第三帝國と呼ぶ所以はかうである。ドイツの神聖ローマ帝國、之を第一帝國とし、それから歐洲大戰前までを第二帝國とし、而して今ヒツトラーの建設せんとするもの之を第三帝國と稱するのである。ヒツトラーはいふ。マルキシズムはユダヤ的であり、デモクシラーはフランス的であり、リベラリズムはイギリス的である。と。ドイツは今その何れにも依ることはしない。ドイツにはドイツの國家哲學がある。併し第一帝國でもなければ又第二帝國でもない。それはヒツトラー帝國卽ち第三帝國である。

アメリカの新聞人だといふノーデカスは、その著書の中に於て次の如く論じてゐる。

「……ヒツトラー國家は君主政體か、それとも共和制か？　ヒツトラーは未だにそれを知ら

ない。少くともその何れであるかを明瞭にしようとは努めない。黨內には極めて多數の君主制論者と共和制主義者とがゐる。そしてこの兩者は今や分離しようとする危險が含んでゐる。第一の目的は民衆の全階級に於て出來るだけ多數の支持を得ることである。……ゲーペルス（筆者註。ヒットラーの顧問）はたゞ無口になる『我々は共和論者でもなく君主制主張者でもない。なぜならば第一に、政府將來の形態は枝葉の問題だと信ずる。ベルサイユ條約の爲に破壞に瀕しつゝある吾々は、君主制或は共和制の問題を心配するよりも他に爲すべき仕事がある。第二に、この問題は國民が遂に自由を得た時に定められるであらう。併しながら吾々は敢て原則的に言ふが、よい共和制は惡い君主制に優るし、またよい君主制は惡い共和制に優るのである。政府の兩つの形態には各々の利害がある。その何れを選ぶかは自由を得た民衆が選ぶ任務である。』ヒットラー黨の目的を一切明示する筈の綱領において、獨裁官といふ語が故意に避けられてゐると同じ樣に、政府將來の形態も言及されてはゐない。君主制か共和制かの問題は愼重に除外されてゐるのだ。――フエダーのユダヤ人排斥、不當利得者の所刑、ベルサイユ條約の破毀等の如く――一切のものを民衆と無交渉のまゝ獨裁的に實行しようとする新政黨において、君主制か共和制かといふ政體問題が、寬大にも民衆自身に任されるといふことは、どうも

信じ難い事である。」

一九二一年の春がまだ淺い頃、賠償金不拂問題が固となつて、フランスとベルギーとの聯合軍はドイツ領ルール地方に進撃して、遂に當地方を聯合軍が占領してしまつた。この時ヒットラーはその豫ねての主張に基いて、勇敢に之を論難した。そして卍の旗を(ハーケンクロイツ)、高々と押立てゝ一大示威を決行したのである。その時彼はかう説明した「あの旗の地色を赤にしたのは、我黨の運動が社會的思想に立脚することを示したのであり、中央の白い丸は國家社會主義の象徴であり、中の卍はユダヤ人に對して闘爭する意思を示すものである。」

丁度この頃から彼ヒットラーはその黨員の増加するにつれて、黨員を以て軍隊的組織を作り同時に軍隊的訓練を與へ始めた。そして之には Sturm Abteilung（著者註。突撃隊、暴風隊、嵐の分隊、奇襲隊等の譯語が現在日本で用ゐられてゐる。又嵐シャッツ隊、褐シャッツ隊といふ名稱はナチス即ちヒットラー黨員の服裝の色よりいふものである。）の名稱がつけられた。普通にS・Aといはれてゐるものである。これはヒットラー黨を軍事的防衛的に援助する爲に組織せられたものであるが、後には積極的に行動する様になつた。否事實現在ヒットラー黨の運動が實に目醒ましくも勇ましい活動を發揮し、躍進してゐるのは三十萬と號せられてゐる。このS・A即ち突撃

隊の果敢なる行動によるのである。

一九二二・三年頃と言へば日本では大正十年前後の時代で、好景氣が幾分下り坂にはなつたもの丶、まだ〳〵世は太平樂の夢を見てゐた頃であるが、ドイツに於ては當時經濟窮乏のドン底に呻吟し、獨貨マルクは極度に暴落して、紙幣は最早や此處では紙屑同樣の價値しかなくなつた。物價は一億倍にも狂騰した。鉛筆一本が五千圓もしたと聞えた所で、吾々日本人には本當には思ひない位である。良家の令孃はわづか珈琲一杯のために、身命にも代へ難き大切なものを捧げたといふのである。か丶る時代に於ける社會的混亂、國內的騷擾それこそ嵐だ、暴風だ、洪水だ等との一時的自然のいたづらとは比較にならない。

一九二三年の秋といつても冬に近づいた頃、武裝したトラックがミュンヘンに突進した。街々には卍の旗がヘンポンとして飜つた。間もなく議會の門前には突擊隊が突如として姿を現はした。そして議場の出口は突擊隊によつて守られ、扉は開かれた。この時ヒットラーは自ら先頭に立つて議場に這入つた。そして彼の放つた一發のピストルの音がまだ止むか止まぬ時に、彼は騷然たる議場を見廻し乍ら場內の靜肅を要求した。續いて彼は次の如く宣言した。

「バイエルン及びドイツ政府は今日限り免職された。予は更めて提議する。バイエルンの新

統治者にはフォン・カールがなり、總理大臣にはボオネルがなる事を。而してドイツ國民政府の攝政にはルーデンドルフ、首相にはヒットラーが就任する。」

絕對絕命とはこの事である。バイエルン首相カールもその軍司令官フォン・ロッソー將軍も爲すべき術を失つて、ヒットラーの提議に贊成を與へた。そして假政府の宣言書にはルーデンドルフやヒットラーと共に署名までした。その翌日ヒットラー黨は街々を行進し、到る處で演說を試みた。ヒットラーはその配下に向つて吾々の行進中に少々の抵抗が起るかも知れない。若しそんな事があつたとしても諸君は絕對に銃をとらぬやうと命じた。行列は漸次進んで將校會館の前に差かゝつた時、一發のピストルが晉響を立てたと思ふ間もなく行列に向つて一隊の警官が殺倒した。抵抗を禁じられた突擊隊は逮捕され卍の旗は血によつて彩られた。ヒットラーも二日後の十一日には捕へられてしまつた。これはカールやロッソーが一夜の內に變節して、警官隊にヒットラー一味を捕縛せしめたからである。後ヒットラーは裁判の結果五ヶ年の禁錮を言渡されたが、一年後には許されて出獄した。

一體ヒットラーが突擊隊を組織したもと〳〵の原因は何處にあつたかといへば、それは對外的意味でもなく、對內的に內亂沈靜の目的でもなく、一に國內共產黨撲滅のためであつた。ド

イツに於ける共産黨は實に横暴を極めてゐる。議會に於ては彼等は相當の地位を占めてゐる關係上、かなり露骨な宣傳を平氣でやつてのけた。首都ベルリン市に於てはギャングの所業を敢てした。ある外國人はドイツに遊んで嘆息したといふ事である。「ベルリンは今や暗黒の都市シカゴと同じである。」と。かゝる事情であるが故に、突擊隊と共産黨員との間には至る處に於て隨時に血なまぐさい亂鬪が演出されてゐるといふ。

一年間の禁錮生活を送つたヒツトラーは一九二四年十二月に出獄を許されると、直ちに第二次ナチスの進軍を企てた。第一次ナチス建設の場合は非合法的行動を取つたけれども、入獄生活が彼の心境に進歩を促したのであらう。第二次ナチス建設に當つては彼は議會政治に對しては專ら選擧鬪爭によつて、合法的に政權獲得の擧に出ると同時に、突擊隊の組織も一層强固な確實なものとして、漸進主義をとるやうになつた、かくて彼の合法戰術は大いに成功し、選擧の行はれる度每に飛躍的勝利を獲ち得た。本年三月から四月にかけての大統領選擧については既に述べた。去る七月三十一日のプロシヤ洲議會の選擧についても既にのべた通りの大躍進を示してゐる。第三帝國の建設を理想として、あらゆる萬難と戰ひつゝ一難又一難と克服し躍進するヒツトラーの運動、ドイツに於けるフアツシズム運動、それは今後の經過に見る事としやう。

第三節　地球全面への擴動

既に述べたやうにファッシズム運動は、もとイタリヤに發源した二十世紀初頭の新運動である。そしてイタリヤに於ては完全に成功の範を示した。ムッソリニーは「ファッシズムは輸入品ではない。」と言つてゐるが、現實世界にはファッショの波動が渦きつゝある。それは輸入ではなくて流行なのかも知れない。吾々はたとへそれが輸入であらうがなからうが、又流行であるのかどうかは別問題として、現實世界に擴がりつゝあるファッシズム運動の實相を眺め、それが將來如何に變化して行くかを見ようとするのである。

ファッシズムは理論ではなくて實行だと言はれる。併し實行のある所には必らずその因つて然るべき思想が存在せなければならない。いふ所のファッシズムの思想とは何か？　それは大局から觀て次の四箇に要約し得られると思はれる。即ち第一には民族主義、第二には統制經濟主義、第三には社會主義、そして第四には行動主義である。而して之等の思想は政治、經濟、社會等廣汎なる方面に及ぶものであるが、要するに近代に著しく且つ、複雜化して發達して來た所の之等の思想が、世界に散在する夫々の國々の現狀を打開すべく、その根底を流れたもの

と思考されるのである。かくあらねばならぬものをかくあるべき樣に、其處に意識的にか、無意識的にか之を實行し、實現したのがムツソリーニなのである。

ファッシズムは現代に入つて創められたものではない。古く既に存在したとの說もある。けれどもそれは觀點の相違ではあらうが、ムツソリーニには彼獨自の現代的なものがあるのである。この意味に於てファッシズムは彼の創造であると言つて差支はない筈だ。

とまれファッシズム及びその運動の善惡正邪は別問題とし、又これが輸入品なりや否や、流行か否か等は他の機會にあつさりと讓つて、こゝでは地球全面に擴大し、躍動しつゝあるファッシズム運動の地理的狀態を見る事とする。

先づファッシズムの發祥地ヨーロッパから點檢すると、本祖の對岸ギリシヤ、アルバニヤは最も早くその影響があつてファッショ化し、次いでポルトガル、ブルガリヤ、ポーランド、リトアニヤ、チエッコ・スロバキア、ハンガリー、ユーゴースラビヤといふ樣に小國側に飛火した。スペインは既に終つてをり、現在世界の政界迄も動かさうとしてゐるものにドイツがあり、オーストリヤはその指導下に動いてゐる。フランスとイギリスは未だ表面は悠々としてゐるが、前者は一九二九年に於て社會黨の社會ファッショ採用決議となり、後者は一九三〇年頃

から漸次その運動が擡頭し、翌三十一年には既に一部實行に及んでゐる。

次にアジヤ方面はどうであるか。トルコは既に實行成功の域に達し、今やアラビヤ、シリヤ、ケラク、イラク、ペルシヤ、アフガニスタンの强弱の差こそ見ゆるけれども、氣運濃厚、あるひは實行に移つてゐる。支那は既に蔣介石のクーデターがあり、最近（本年もつい最近）になつてフアツシズムに向ふべき事を明言した。インド、フイリツピンの獨立運動にはその陰影が極めて薄いから、寧ろこれは純粹なる民族運動と見て、フアツシズム運動とはきり離した方が正當である。さて他國樣のことはそれ位にして己が住む日本はどうか？　これは眞劍に硏究檢討する必要がある。併しこゝでは單に現在その星雲道程中にあるといふことだけに止めて、今暫らく靜觀正視することとする。

アメリカに眼を轉じよう。先づ合衆國であるがこゝはその名も合衆國にシンボルされてゐる通り、世界人種のオンパレード、從つてフアツシズム運動等といふ事は到底考へられない國であるが、本心か、流行か、人眞似か、國眞似かは知らねども、世界的時流の大勢には動かされるものと見えて、薄々その傾向を耳にはさむ樣になつた。北米では寧ろ政治的にといふよりも經濟的に動いてゐるらしい。南米は既述した如く十一ケ國中ウルグワイ、コロンビヤ、ギアナ、

ヴェネズエラの四ケ國を除いては、近々一兩年の間に揃ひも揃つて革命を決行してゐる。但し何れも又フアツシズムによる革命ではないが、併し革命そのものの氣運に到達した事については、フアッシズム運動の影響を見のがせないであらう。

二十世紀に入つてから今日迄未だ三十年の歳月が流過しただけだのに、ミリタリズムだデモクラシーだマルキシズムだ、そしてフアツシズムだと目まぐるしい世相の動きに、近代人の神經は著しく尖銳化してゐる。之等のイズムだ運動だといふものが旋風となり、龍卷となり、雜然混然として大渦動運行をする時に、結局落付く所は何處であらう？

大宇宙の運行は常に整然として變りなく、その中にいくつもの莊嚴なる眞理を示してゐる。この大宇宙の中にほんの一粒として存在を許されてゐる地球上に於ては、幾多の矛盾が繰返され强行されてゐるようだ。無限大の宇宙から無限小の微粒子の間に存する莊嚴な眞理、純粹清華な美、そして圓かな善と敬虔な聖殿、そこに悠遊千年の生を樂しむはたゞ吾々に許された精神の世界があるのみだ。吾々は地球上に住んで種々なる人間社會の中に恩惠を受けつゝある。俗塵の汚れにも會はねばならぬ。社會への犧牲も奉仕もせねばならぬ。生命の持續も願はねばならぬ。結局吾人は苦惱の中に宇宙的生活、宇宙の中に苦惱の生を活かさねばならぬのだ。

第三章　ファッシズムの形態

第一節　政治上の形態

一、議會政治の拒否　近來ファッシズムの擡頭と共に議會政治の否定、政黨政治の打破又は反議會主義等の語を聞くに至つた。否事實議會政治即ち政黨政治は、今やファッシズム國に於ては打破されてゐる。それは何故か？

後來明瞭にせられる如く、ファッシズムの思想根底は民族主義、統制經濟主義、社會主義及行動主義であるのに反して、議會政治はデモクラシーを根據とするものであり、デモクラシーはその思想上の根底を國際主義、資本主義、自由平等主義に發してゐる。從つてファッシズムとデモクラシーとは思想的に反相し、前者に於ては獨裁政治を以てその形式とするから、當然議會政治を拒否する事になるのである。それはかりではない、議會主義が否定せられる樣になつた原因には、議會そのものが自らの缺點をば餘りにも多く世人に暴露したからでもある。

吾人は議會政治の否定せられる前に、もう一度ふり返つて議會政治そのものゝ姿を正視せな

ければならぬ。先づイギリスを見次いでフランス、アメリカと世界に於ける代表的なものの正體を見る事とする。

世界に於ける議會制度の淵源地はイギリスである。從つて議會を見るならイギリスの議會を見よと言はれる程、議會制度に關しては世界に範を垂れ、且つ今尙彼等の誇りとする所である。そのイギリス議會の構成はといふと議會は上下兩院から成り、上院は貴族、敎會の監督、勅選及び選擧による所のもので約七百四十名の議員から成り、下院は全くの普通選擧によつて選擧された、六百十五名の議員から構成されてゐる。任期は五ケ年である。そして下院は滿二十一歲以上の者には男女を問はず、選擧權被選擧權双方とも與へられてゐる。議會は每年二月に開會され、日曜日、祭日、暑中休暇の外は年中開會されてゐるといふ無期限制である。上下兩院に於ける議決權は略々對等であるが、豫算案については下院に、先議權を始めとして多くの權利がある。若し上院が豫算案について一ケ月以上その審議を延期した時は、豫算は下院の議決そのまゝを採用する。他の法律案に付ても上院が二年以上に及んで尙議決しない時には、下院の決議を以て法律となる事になつてゐる。尙總理大臣は必らず下院に議席を有すべしとの慣例になつてをり、それ以外の大臣は上下何れかに議席のある者は、他院に於ては發言し得ない事

になつてゐるのである。現在の政界の分野は次の如くである。

（一）保守黨　四七三名　（二）自由黨　七四名

（三）勞働黨　五二名　（四）國民勞働黨　一三名

（五）無所屬　一名

現在の內閣は保守、自由、國民の三黨聯立で所謂擧國一致內閣（種々のイキサツあり）を組織してゐる。前にイギリスにもフアツシズムの影響があると言つたのは、この邊りを指したのである。

フランスの議會は元老院と代議院の兩院から成つてゐる。元老院は代議院議員、縣會議員、郡會議員及市町村會議員等の中から、年齡四十歲以上に達して代議院議員選擧資格を有し、且つ徵兵法の規定する義務を完了したものを、更に間接選擧によつて選出された者から構成される。任期は九ケ年で三年目毎に定員の三分の一づゝを改造するのである。代議院は被選擧權を有する滿二十五歲以上の男子で、滿二十一歲以上の男子によつて選出された六百十二名の代議員から成立する。

財政上に關する法律案については代議院に先議權を有するが、その他は兩院同等の權利であ

る。議會は每年一月の第二火曜日に召集し、會期は一定の時日を定めずに五ケ月以上といふ事に決められてゐる。

政黨は全く小黨の分立割據である。從つて内閣は常に安定することなく、一定の政策實行といふ事は甚だ困難とされてゐる。

アメリカの議會はフランスと同樣元老院と代議院との二院から成立して、代議院は人口二十一萬一千八百七十七人に對して一人といふ比率で議員が選擧され、選擧權は年齡二十歲以上の者、被選擧權は年齡二十五歲以上の者で、七年間合衆國の公民であり、その上選擧の時その洲の住民である者が之を有する。議員定數は現在四百三十五人で、任期は二ケ年である。元老院議員の選擧資格は前者と全然同一であるが、唯人口に比例しての選擧でなく、各州から夫々二名づゝを選出するの定めである。任期は六年とされてゐるが二ケ年目每にその三分の一づゝを改選する。被選擧權は年齡三十歲以上の者で九年間合衆國の公民であつた者、そして選擧當時その州に住んでゐたものでなければならぬ。

下院は英佛と同樣豫算案を編成して先議するの權利がある。上院は豫算案について修正及議決するの權利を有する外に、官吏の任免と對外條約批准決議權を有つてゐる。この後者は他國

加入しなかつたのは全くこの上院の否決に會ひ、批准を拒まれた結果であつた事は、餘りにも世上有名な話題となつて殘されてゐる。すべて以上の如き議決は上下兩院とも、議員數の三分の二以上の賛成を得なければならない。

米國の政黨はその建國以來二大政黨であつて、この兩者は傳統的に代る代る政權を掌握しつゝある。一は保守的な共和黨で他の一は進歩的な民主黨である事も世界に有名な事である。從つて世界の對米外交政策が各黨の政權掌握によつて、多少變化するのは當然であるが、反對にアメリカの對外政策も又傳統的精神が常に現はれてゐる。

アメリカの政治組織に於て立法、司法及び行政の三權が、確然として分立してゐる事も有名な一つとして附言しておく。

以上極めて一瞥的ではあるが議會組織の代表的なものを見た。而して之等議會主義者は異口同音にいふのである。議會の第一黨は即ち國民の輿論に支援されるものであるから、これが政權を掌握して內閣を組織するのは極めて當然であると。この論には一應尤つともな處がある。併しこれは一のカムフラージではないか。輿論の支援といふ事は選擧が極めて公平嚴正、換言

すれば理想的に遂行せられた場合に於ては正當である。しかしながら現代諸國に行はれつゝある選擧が、常に餘りにも不公平であり、餘りにも茶化して行はれつゝある事實は、如何に議會主義萬能者と雖も認める事であらう。

二、獨裁政治の要求　デモクラシーは多數者の政治參加を基調とする。從つて其處には妥協、政爭、政黨分立等が當然に發生する。而して之等の妥協、政爭、又は政黨の分立等は、自ら事緩漫にして非强力的結果を生來する。議會政治と稱するものは即ちかゝる政治である。歐洲大戰後の世界には戰爭そのものと、一九一七年のロシヤ革命との影響によつて、著しくマルキシズムの發達を見た。そして社會的混亂は極度に達し、その上に加へて經濟的恐慌が、國家を破綻的立場に迄導いた。

かうなつてくると議會政治は最早や賴りなきものとなり、國民は他に强力なる政治を翹望するに至り、國家は强權ち必要とするに至つた。議會政治の否定！　マルキシズムの打破！　經濟恐慌の打開！　そして强力なる政治！　國家の强權！　それは期せずして國民も國家も望む所であつた。かくて生れたものが强力政治、即ち獨裁政治であつたのである。

獨裁政治は英雄政治である。天才政治である。力の政治である。一人の爲す所よく國難を打

開し、國運を發展せしむるの力量がなければならぬ。一人の命ずる所よく萬民をして首肯せしめ、國民をして滿足せしめ、服從せしむるものでなければならぬ。一人に宿る頭と腹と腕は、萬人の敬仰し心服するものであり、そして萬人を動かし得るものでなければならぬ。其處に獨裁政治は力の政治であり、英雄の政治であり、天才の政治たる所以が存するのである。

此處に一言注意せねばならない。それは過去の獨裁政治は所謂暴君政治であつた。けれども現代のそれは國民的獨裁政治であるといふ心に、換言すれば現代の獨裁者は過去に於けるそれの如く暴君、又は帝王を望むものではなくて、一意國家の危急を救ひ、國民の苦難を除去し、國家の繁榮發展のために一身を犧牲にするものである。決して私利、私慾、私望の不純のための野心政治ではないといふ事である。著者はこゝで現代獨裁政治の事實を見る事にする。

トルコと言へばかつては歐亞にまたがる一大强國であつたけれども、今はアジヤの一角に七十六萬二千七百平方キロの、一弱小國としての存在となつてしまつた。トルコの歷史を知る者にとつては、心ひそかに亡國の哀れさと、興亡常なき世の相に、深き感慨を禁じ得ないであらう。況んや祖國としてその歷史を最もよく知つてゐるトルコ人にして見れば、その餘りにも哀れなる現狀に自づと涙なきを得ないであらう。

石童丸ならずとも「涙は佛のためならず」に非ずして涙は國のためならず、遂に起つべき時とその〻とがあつた。丁度トルコ軍が聯合軍に降伏して、そのためにヨーロッパに於けるトルコ領が沒收され、その上アジヤに於ける土地が大部分失ふ破目となり、尚且怨敵ギリシヤ軍が、潮の如くトルコ領へ雪崩れ込まうとした時である。一世の英雄ケマル・パシヤは敢然として起つた。祖國の救護！　外敵の擊退！　彼ケマルは祖國愛の熱情に燃えて、アンゴラに義兵を擧げ、祖國を救へ！　の旗の下によく寡兵を以てギリシヤ軍に當つた。愛國の血に燃える靑年は陸續としてケマルの下に集つた。三ケ年の苦戰奮鬪の後、遂にギリシヤ軍を完全に國外に擊退してしまつた。一九二三年十月二十九日トルコは共和制をしき、ケマルは推されて第一代の大統領となつた。

一度大統領の榮冠を獲ち得たケルマは更に活眼を開いて前後內外を見渡した。第一次外敵は擊退した。しかしその後には第二次第三次の外敵が見える。國內をと見れば疲弊、混亂、經濟恐慌、舊弊山積！　其處で彼は先づ內政の改革に全力を注いだ。記述を簡便ならしめるために新制度を列擧すれば左の如くである。

(1)　皇帝權及びハリフ位の排棄

(2) 修道院の廢止

(3) アラビヤ文字廢棄

(4) 服裝の歐化

(5) 回々敎の排除

(6) 敎育の國民化

かくて舊來の弊風だつた國民の階級を撤廢すると同時に、ギリシヤ人はどしどし之を國外に移住せしめ、一方國民には大いに經濟思想を鼓吹し、トルコ人をして自ら町人となることを奬勵した。その結果は漸次產業は大部分、自國民の手によつて經營せられるやうになつたのである。一九二三年ケマルはスミルナの經濟會議に於て絕叫した。

「經濟的勝利を得るなくんば劍の勝利も畢竟は無意義ならん!」

彼の外交上の成功の主なるものを擧ぐれば、

(1) 首都コンスタンチノーブルの奪還

(2) ローザンヌ會議の成功

(3) 民族問題の解決

(4) 治外法權の撤廢

(5) 關稅の自治權

彼ケマルの成功は、一として先人の爲し得なかつた程の、偉大なるものならざるはなしといふ有樣ではあるが、その中に於ても祖國をギリシヤの侵略から全く解放し、ローザンヌ會議に於ては降伏的の廢棄に成功し、同時にサルタン政治の民治的宗敎的權勢を破壞した事は、恐らく最とも彼の業蹟の特筆すべきものと言はれてゐる。

トルコの獨裁官ケマルは今日尙孜々として祖國の繁榮發展のために奮鬪しつゝ、世界に向つ、てその氣を吐いてゐる。東洋民族が一として白人の抑壓に甘ぜねばならぬ狀態にある時に、我大和民族と共に世界に向つて東洋民族の氣慨を示せるものは、實にトルコあるのみである。この意味に於てもケマルの業蹟には、偉大なる力があると賞賛と敬意を惜しまないものである。

ドイツに於ては今やヒツトラーの運動が實にかゞやかしい成功と、爆竹の勢威を示しつゝある事は前に述べた如くであるが、現實ドイツに於ては大統領ヒンデンブルグ元帥によつて、立派に獨裁政治が行はれつゝあるのである。そして國議會はあつても事實上ないものとなり、緊急令は夜に日についで發布される狀態である。一九三〇年七月の末、彼ヒ元帥は初めて「財政

經濟及び社會的急迫除去を目的とする「緊急令」を發し、その後續々いくつもの緊急令を發布されたのであるが、今その夥しき一例として一九三一年即ち昨年の七月十三日以後、わづか二ケ月間に發布せられたものだけを示して見よう。

(1) ダナート銀行に關するもの	六
(2) 全國銀行の一般閉鎖に關するもの	一
(3) 外國旅行者旅券手數料引上に關するもの	三
(4) 政治擾亂取締りに關するもの	五
(5) 取引所再開に關するもの	一
(6) 取引所の業務速進に關するもの	二
(7) 外國爲替相場の建方に關するもの	七
(8) 外國貨幣勘定の支拂方法に關するもの	三
(9) ドイツ共和國商法改正に關するもの	一
(10) 農產物賣買の促成に關するもの	二
(11) 國內資本の逃避及脫稅の防止に關するもの	四

(12) 資本管理會社及納税者の手續簡省に關するもの　一
(13) 株式會社及生產組合の破產に關するもの　一
(14) 株式相場公表に關するもの　二
(15) 私立發券銀行券の金準備に關するもの　一
(16) 株式會社へ國家の參加に關するもの　一
(17) 貯蓄預金勘定に關するもの　一
(18) 貯蓄金庫振替金庫及地方自治金融施設に關するもの　一
(19) 滯納者の租税免除に關するもの　二
(2) 租税滯納遲滯利子に關するもの　一
(21) 外國貿易決算に關するもの　一
(22) 海外支拂債務者の屆出に關するもの　二
(23) 外國債權者の回收猶豫の保證に關するもの　四
(24) 株式權銀行管理及滯納税免除に關するもの　一

右によつて見てもわづか二ケ月間に六十四の緊急令が、發布されてゐるのであつて、實にそ

の矢次早やに連發せられたといふ事は、如何に當時及その前後に於ける獨逸が、危急逼迫せる國情であつたかを想はしめると同時に、一方亦ヒンデンブルグ大統領の獨裁治下にあるかといふ事を、明かに認め得らるゝのである。

ドイツ國憲法を見るとその第四十八條には「公安ト秩序トカ著シク妨ケラレヌハ危險ニ陷リタルトキハ大統領ハ非常權力ヲ使用スルコトヲ得」と規定されてゐるのであるから、憲法上からは毎日一つ二つづつの緊急令を公布したからとて、大統領は憲法違反の不法行爲を犯すものではない。がそれにしても前記の如き一日又は二日毎に一つづゝの緊急令は、全く以て暴君的態度と思はれるであらう。併しこゝに一言挿入すべき事がある。それは獨裁政治家としてのヒ元帥の人格についての一端である。

——去る大戰が休戰條約締結となつたとき、西部戰線に於てその敗北せる軍隊を糾合し、各地に散在駐屯する軍人(二百萬人)を集めて、本國に歸還させる仕事は非常な難仕事であつた。それはその事そのものが非常な難事であるのみでなく、敗將にとつては故國に待つものは、棘の冠であるからである。然るに彼ヒンデンブルグは之を爲しつゝあり乍ら、一九一九年には、折しもチエッコ・スロバキア軍の國境侵入を防壓して、戰功を建てたのであるが、その年三月に

は早くも彼は隱退生活に入つて、餘生を送る事にしてゐたのである。ところが一九二五年彼が七十八歳の時、ドイツの國狀は危急惑亂の苦境に入つたのであるが、この時彼は國民の要望に依つて、國事のために大統領に選ばれ、多端複雜なる國情を救ふの決意を定めたのである。國民は安堵して彼に滿腔の敬意と感謝を表した。彼は曰つた。

「予は予の義務を盡しつゝあるのみ。」

一度大統領となるや、公平無私全く神の如く、只管に國事のために一身を捧げてゐる。

「予は如何なる黨派の命令もきかず、又世の人もそれを望まざるべし。」

「ドイツ國民は協力一致の教訓を學ばざるべからず、何となれば協力の中に力あればなり。」

彼が第一回大統領選擧に際して選擧前發したメッセージに

「私の生涯は世界の面前に開かれた書物の樣なものである。私はドイツが最も困難な時代に、私の義務を盡したと信ずる。若しも同じ義務が私を黨派、職業、人種を超越して憲法に從つて行動する樣に私を呼ぶならば、大統領となることを必ずしも辭するものではない。黨派は議會政治をやつてゐる國には必要であらう。けれども最高の機關は黨派を超越し、國民を同等に扱ふ政治をしなければならぬ。」

選擧後には

「闘は終つた。私は皆と握手をしたい。今の敵とも握手をしたい。そして祖國の幸福のために努力したい。」――

以上極めて斷片的な挿入ではあるが、之によつても大統領ヒンデンブルグの、人格の一端が相當にうかゞはれると同時に、彼が決して暴君的獨裁者でない事が明かであらう。そして彼が如何に「予は予の義務を盡しつゝあるのみ」であり、日毎に公布せられた緊急令も淡心赤誠國家のための一事に盡きるを知るであらう。

しかしながら一九三一年、即ち去年十月七日に發表せられた大統領令は、聊か驚きの眼をみはらざるを得ない。といふのは同緊急令によると、憲法上認められた人民の自由權が完全に破壞せられるのであつて、これこそ實に亂暴なるものと許せざるを得ないのであるが、一方現ドイツの危殆が如何なる程度に存するかといふ事は、よく想像し得られる次第である。

本年三月及四月の大統領選擧に於て、再び八十有餘歳の老元帥が、尚七ケ年間の大統領として選ばれたといふ事は、如何なる事を意味するものであるか、ヒツトラー運動の猛威と共に、今後のドイツ政界こそ世界人活目の最大票的である。

第二節　經濟上の形態

一、資本主義經濟の排除　資本主義の經濟組織及その弊害に關しては此處に縷述する必要はない。

マルクス主義者にいはせると、フアツシズムは今や沒落過程にある、資本主義擁護のために生れたものだといふけれども、フアツシズムは決してそんな無理解者の考へるやうな經濟主義に依るものではない。それどころかフアツシズムは、一方マルキシズムに反對すると同時に、又一方に於てはブルジョア資本主義を正面から攻擊し、反駁するところのものである。從來の個人主義、自由主義を礎石とするブルジョア資本主義を、打ち倒せといふ經濟上の主義を取るものである。卽ち從來の資本主義社會に於ては、私有財產の制度を設けて、各個人は自己の所有する財產は、無限に之を擴大することが許された。而して法律は嚴重に之を保護して、たとへ國家の權力を以てしても、尙且つ之を自由に犯すことは出來得ないものとした。フアツシズムに於てはこの資本主義と同樣に、個人に財產の私有は之を認める。けれどもそれは決して資本主義と同じ內容ではない。卽ち自由主義による個人的效用を增加せしめるためではなくて、社會的效用を

増加する爲にそれは必要な形態であるといふのである。換言すれば公的效用を計る方便として私有財産制度を承認するのである。更に直截に言へば國家の使命が最大最高最上のものであるとするのである。更に具體的に言へば、私人の財産は國家の目的のためには、自由に使用、收益又は沒收されなければならぬ。從つてその富を作出する所の生産機關も、當然國家の統制下におかれ、且つその命令に從つて自由に生産内容も變更されなければならぬといふのである。

一般的私人の經濟を國家に於て統制するのは、單にファッシズムに限つたことでは勿論ない。社會主義の經濟に於ても政府が之を行ふ事は同樣である。併し乍ら兩者には主義上根本的に異る所が存する。即ち社會主義に於ては全然私有財産を認めない。そして富の一切は國家が之を有するのである。社會主義に於ては個人は社會の中に溶解してしまうけれども、ファッシズムに於ては個人は社會の中に溶解せられるのではなくて、社會の統制下におかれるのである。こゝを以て資本主義の方からはファッシズムは一種の社會主義呼ばりをされ、マルクス派からは資本主義呼ばはりをされるのであるが、前述の如く純然たる資本主義にあらず、勿論社會主義でもなくて、各それ等の長を採り短を棄てて、その間に自ら進むべき一路を打開してゐる所以である。

二、統制經濟　資本主義經濟にも社會主義經濟にも偏せざる、所謂不偏不傾の經濟上の主義、然かもその兩者の長を採り短をすてて、一面には個人の私有財產權を認めながら、一面には國家の權威を認めて國家の統制に依らむとするものは、之を統制經濟と稱するのである。ファッシズムが「國民社會主義」とか又は「國家社會主義」なる文字を用ゐてゐるのもかゝる事情からである。以下世界に於ける主たる國々の統制經濟について二・三の實例を摘示しやう。

(1)　イギリス

（一）　自由黨の統制經濟案

（イ）常設經濟政策委員會の開設　英國產業統制の組織的な重要な地位を有する機關である。

（ロ）經濟參謀本部　大規模なそして各方面廣き範圍の調査と、建設計畫の具體的立案や献策等をなし、並に產業統計の總括的見地からして、其の完成及び內外經濟狀態の組織的研究等を掌るものである。

產業上の統制活動は以上の如き中心的指導機關の下に、次の如き諸政策の實現に邁進するのである。

（イ）國家資源開發局を設けて計畫的且積極的に諸種の公共事業を實行する。例へば農業の改

如き造、道路港灣、運河、都市計畫、灌漑事業、電力建設等而して營利的には到底損害を免れぬ如きものであつても、社會的に極めて有效なるものとするならば、幾多の大事業を國家及び公共團體自身が計畫的に、精力的に發展させねばならない。

（ロ）國民投資局を設けて政府の掌中にある全資本の集中的管理を爲し、更に必要あれば國民投資公債を發行して、之によつて政府及び地方團體の全公共事業及積極的統制政策の財源を充分確保せしめねばならぬ。

（ハ）政府は英蘭銀行の有效な統制を通じて、一般金融界にも有力な統制的進出をなさねばならぬ。

（ニ）勞働問題の方面にも今後は一層重大な干渉指導乃至管理を進めなければならぬ。

要するに政府自らが全國經濟の中心的指導者又は管理者として、各方面に重要なる統制的政策を發展させ、依て以て國民的資源を動員し、又公共事業を振興し、それによつて從來個別的私的資本にのみ一任されてゐた所の産業活動の能率をば、國民的に引上げねばならぬといふのである。

（二）コールの産業十ケ年計畫

（イ）議會の中に常設的な產業統制委員會を設けて、組織的に最高計畫案を處理せしめる。之を常設組織としたのは速に、休會中でも絕えず問題の處理を可能ならしめるためである。これと並んで獨立の監査機關を設けて統制機關の活動を監視し、又批判せしめる。而して此機關から議會に對して批判的な報告が提出される。

（ロ）實行上の具體的統制者としては、さし當り次の機關が設けられる。

（a）動力及運輸統制委員會　石炭、電力、ガス、石油、交通機關等の特殊の基礎的部門の統制を司る。

（b）一般工業統制委員會（國民投資局）　先づ紡績業とか、鐵工業の如き特に難局に直面してゐる大工業の專門委員會が設置されて、その計畫的な打開を掌り、漸次統制權を擴大して行く。

（c）農業上の統制　さし當り土地の社會化を實行する。又農業信用の改造をなし、農產物の販賣を統制する專門委員會等が設立される。

（d）商業上の統制　特に外國食料品の輸入、主要原料の輸入及配給、カルテルの統制、協同組合運動の促進、物價の統制等。

（e）信用上の統制　特に英蘭銀行及五大銀行の統制並に國民投資に對する統制、ロンドン市場に於ける新發行の特許制、國內產業の合理化のための資本供給等。（小島精一著「日本計畫經濟論」一九一—一九六頁）

一九二〇年代に於ける列强諸國の經濟的大恐慌をば、ニヤリ〳〵と笑ひ乍ら自國のみは「永久の繁榮」を誇つてゐた北米も、一九三〇年代に入るや、モロくも一轉落して列强と同じ運命にさ迷ふ狀態となつた。この時に當つてその情勢を見た達識の當國經濟學者は、競ひ立つて所謂統制經濟の必要を論じた。と同時に一方に於ては直ちに政治家、實際家を通じて、その實行運動に取りかゝつた。こゝに於て進步した所の資本家等は過去の無秩序な生產組織と、不要有害なる自由競爭の弊を痛感して、これが組織と統制とを望むに至つた。彼等は更に又產業界の安定のために金融に關する公共的統制の必要を認めると同時に、勞働者の組織とその協力と統制とを必要として來た。他方勞働者側に於ても從來の無理想な勞働組合主義が、何等民衆の不幸を救濟すべき力のなかつた事を切實に感ずるに及んで、一定の計畫を有する統制經濟の重要なる事を覺るに至つた。かくの如くしてその運動及び統制經濟の要求は、資本家も勞働者も農民も中小工業者もさては官吏、サラリーマンも、政治家（主として右翼）經濟學者も各組合等あ

らゆる方面にわたつて、各自に有利な主張を爲すに至つたのである。從つてその主張する議論も實に千差萬別である。例へば統制經濟を指導し、實行する所の經濟參謀本部といふべき機關の設立にしても、あるものは政府の國家機關によつて統制すると主張し、あるものは半官半民制によつて統制すると言ひ、又あるものは公立の株式會社の如きものを作つて、之によつて統制しようとし、或は又全然消費者のためにする監督統制機關によるが妥當である等、その歸結する所を知り得ない有樣である。その中に於て最とも肯定され得るものは、全米商工會議所が特に特別委員會を組織して統制經濟案を熱心に主張したことである。

彼等のいふ所によれば今日の經濟恐慌に遭遇して、自覺した急務は何よりも生產力と購買力との大なる不均衡を克服し、將來は當業者の組織協働によつて、かゝる不均衡の發生を未然に防止せねばならぬといふのである。そのためには組合的活動が必要であり、適當な註文配給の制度に迄進出せねばならない。ところが現在のアメリカに於ける制度では、アンチ・トラスト法の規定が存在してゐるので、一般にその處罰を恐れて折角同會議所で考案した所の組合組織は、到底發展することが出來ない。何故ならばこのアンチ・トラスト法は舊時代のイデオロギーたる自由競爭萬能に基くものであるからである。そこで是非共之を適當に改正して

（イ）カルテル協定はすべて監督官廳に屆出させる。而してその代り公然その活動を承認せしめる。

（ロ）組合組織を締結せんとする者は、豫め監督官廳にその許否をたゞすことが出來るやうにする。

と云ふドイツのカルテル取締法に倣はうとするのである。要するに原則としてはカルテル、トラストは双方とも之を禁壓すべきものではなくて、寧ろ双方共之を公認し、その代りその弊害は徹底的に取締るやうにすべきであるといふのである。

右は商工會議所に於ける主張の一端であるが、こゝ數年間に全米にわたつての氣運はあらゆる方面に於て、統制經濟の動きが強くなつてゐる事である。その社會事業方面に於ける一例をあげると、勞働者災害保證法及び母子保健法、養老保險等が實行され、農民のためには鐵道運賃の統制及び農村金融の保護奬勵が行はれ、勞働者の待遇に付ては勞働時間法の改正等が斷行された。その他最近には高率な累進的所得稅法及び相續法の改正實施を爲してゐる。之を要するに米國に於ける統制經濟は一方には生産過程を中心とする、生産の統制を行ふと同時に、他の一方では各種の施設によつて消費分配の改造を行ひ、依て以て國家的權力を通じて從來の生

産分配の過程を統制しやうとするものである。

次にイタリヤのフアッシズム經濟について一瞥しやう。伊人パアンズは次の如く言つてゐる。

「國家直營の企業の闘するかぎり、イタリヤの勞働憲章は、その指導原理を極めて明確に規定してゐる。卽ち

(1) 協同體國家は生產界における私經營を以て、國家的利福の最大の實力あり有效なる機關と認む。

(2) 生產上のあらゆる主體は國家的見地より一個の統合的努力として見るべし。

(3) 國家的利福の機能たる生產の私的組織卽ちあらゆる經濟的企業の組織者は、生產上に與へられたる命令に對して國家に責任を負ふべきこと。

(4) 國家による經濟的生產上の干渉は、私經營が缺陷あるか、十分ならざるか、若くは國家の社會的利福が混亂されたる場合にかぎり、之を適用するものとす。

この故にフアッシズムは現實に、種々の企業計畫に對して、國有化・公共企業化を行はざるを得なくなる。」

イタリヤでは私有財産、個人の自由活動を認めつゝ、個人と國家との間に組合をおき、此の組合を通して國民をして國家的見地による所の生産に從事せしめやうといふのである、換言すれば經濟活動を直接に統制せずに、漸次組合組織を通して政治的權力と、道德と教育の力によつて、人心改造を行ひつゝ經濟組織を改善しやうといふのである。

イタリヤの統制經濟は生産を以て最も主要なるものと爲し、國家も亦生産者としての結合を基礎とせねばならぬといふ立場に從つて、勞働者も資本家も私共に組合を組織し、その組合は法人として國家行政の一部をなすといふ狀態におかれてゐるのである。而して勞働者も資本家も共に最下級の組合より、漸次聯合、總聯合を作り、資本家及勞働者組合全國總聯合の數は農業工業商業といふ様に、産業部門の數に應じて全國に十三を限つて認められるのである。尙勞働者並に雇傭者の双方の聯合が合同して作る所の協同組合があつて、之も全國的に七個程設けられ、勞資が等分に代表者を出す様になつてゐる。

さて之等の組合の職能は勞働關係を統制し、殊に協同組合は團體協約を促進する積極的義務を負擔してゐるのである。傭者側の組合は、生産技術の完成、生産費の低下を促進すべき義務を負ふのである。而して此の上には組合大臣があつて、監督權を行使する外に、その最高諸問

機關として協同組合全國委員會がある。この委員會は協同組合の代表者並に政府の官吏、消費組合代表者等を以て組織せられ、勞働並に經濟統制の參謀本部を形成してゐるのである。從つて此の組合は非常に主要なる役割を有するものであるから、以下少しくその權限について述べておこう。

(1) 顧問的職能

（イ）協同組合制度の發達並に國家的生産の必要に應じて、勞働憲章に掲げられた各種の原則の實現及びその統一に關する事項、

（ロ）生産並に勞働の統制に關する事項について法律の主旨に從つて更に法律を規定し、或は規則を制定する事項

（ハ）組合による各種類の利益の保護、又國家によつて組合は委任せられた公共利益に關する事項

（ニ）組合的結合の扶助的活動に關する事項

（ホ）生産、文化並に藝術の完成連絡向上の爲にする協同組合機關の活動に關する事項等

(2) 規定的職能

（イ）法律的に認められた組合的結社並に共補助機關乃至協同組合機關によつて行はれる扶助的職能の連絡統一に關する規定の作製

（ロ）一九二六年四月三日の法律の精神により團體協約乃至其他の手段によつて確定せられた勞働關係の各種の規定を連絡統一するため、並に協同組合の規定的活動を連絡統一する爲の規定の作製

（ハ）法律上認められた組合的結社によつて代表せられた生產の各種類間に於ける集合的經濟關係を規定する爲の規定の作製

以上にあげた様な規定の適用に關する爭は勞働裁判官の管轄に屬してをり、勞働裁判官の職能は經濟關係に迄も擴大せられた。

要するにイタリヤの統制經濟は、その私有財產制度と個人の經濟活動の自由を認め、而して階級對立の事實を一向秘蔽する事なしに、積極的にこの事實を國家組織の中に織り込んだ所に諸國と異る一特色を有するのである。

第三節　社會上の形態

封建的階級の桎梏から解放された近代人大衆は、わづか數世紀後の現代に及んで再び別な意味に於ける階級的壓迫に接觸するに至つた。前の運動は人間の自由平等及國民自治の主張として現れた。今の運動は（ファッシズム）民族（國民）の解放運動であり、階級平和運動である。併し今の運動は前の解放運動の成就した時代から直接に起つたのではなくて、その間には社會運動としての階級闘爭時代があつた。換言すれば前の運動はデモクラシー出現への運動であり、今の運動はファッシズム出現への運動であり、而してその中間的運動が即ちマルキシズム運動であつた。

周知の如くデモクラシーは個人主義、自由主義である。之が一度經濟方面に及ぶと極端なる自由競爭となつて、遂に小數の大資本家有產階級と、大多數の勞働者、無產階級とを生ずるに至る。かくの如くにして資本主義經濟社會が極度に發達すると、そこには有產無產の甚だしく懸隔ある階級が發生する事は又見易き事であり、事實かゝる社會を現出した。そして自らに產ある者資本家階級は、社會上すべてに優越の地位を獲得して、人間としての好ましき何事をも爲し得るに反して、大多數の產なき者勞働者階級は、常に社會上人間としての生活意義さへ果し得ぬ狀態におかれる。而してかゝる差別の依つて起るには、勿論個人的の才能・智力、境遇

等種々なる原因のある事は見逃せないとしても、そこには同時に社會上の多くの缺陷が存在してゐる事は、世人一般の認めてゐる通りである。單に經濟上に於ける有財無財の差別のみでなく、それが原因となつて社會上に於けるあらゆる方面の差別を當然に甘受させられる。その具體的擧例は此に必要のない事であらう。

マルキシズムはかゝる經濟上の矛盾と壓迫から出發して、社會上政治上の問題に迄發展して、遂に有産無産の階級鬪爭運動となつた。マルキシズムには否定し得ない正論があらう。併しその運動、その實行手段には所謂鬪爭のための鬪爭がありはしないか。

資本主義は有産階級を利し、資本家を擁護する所に多くの××と、××を生んだ。マルキシズムは無産階級の發展と有産階級に對する挑戰とによつてその歪曲を曝した。

こゝに於て資本主義の長を採り短を棄て、同時にマルキシズムの正しきを取り歪めるを捨てゝ、最とも嚴正に實際的に中間的に、適正な社會を建設せんとするものがフアツシズムであるのである。そこでフアツシズムに於ては當然に社會的、階級的には中間階級のイデオロギーを礎石とする。この事はフアツシズムの鼻祖ムツソリニーにしても、今やその運動は世界環視の的となつてゐるヒツトラーにしても、明かに認めてゐる事である。マルキストをしていはしめ

ると、中間階級はやがて滅ぶべき運命におかれてゐるものである。この階級はプロレタリヤとブルジョアとの間にあつて、實にあやふやな存在である。今や資本主義の發達と共に二つの階級は高度に對立して、かゝる中間的階級の存在は之を許さなくなり、プロレタリヤ階級かブルジョア階級か、何れかの態度を確然とせざるを得なくなる。然かもブルジョアジーの限りなき發展は、中間階級をして結局プロレタリアートに追ひ落すものだといふのである。

併し果してマルキストの言ふ如くであらうか？　事實中間階級の存在は厳として動かないではないか。現實中間階級イデオロギーを礎石として勇ましく擡頭し、目醒しく活動を續けてゐるフアッシズムを見るべきではないか。

資本主義か？　マルキシズムか？　それともフアッシズムか？　何れは時が將來に解決をするであらう。

第四章　ファッシズムの思想

第一節　國民主義

一、民族主義　今地球面上には大小强弱を合せて凡そ一百内外の國々が存在してゐる。そして之等の國々は、或は一國一民族なるあり、又一國數民族より成るもの等、國家と民族との關係については種々雜多なる樣相を示してゐる。

國に大小强弱ある如く民族にも又優劣多少のある事は自然の勢である。そこで優は劣を制し强は弱を壓して國を成してゐるわけであるが、併しながら過去の劣必らずしも今日の劣ではない。過去の弱も又必ずしも今日の弱ではあり得ない。それは恰も個人が時と境遇との關係から、ある時期の間上下の社會的地位を保ちながら、個々の人々の努力修養等によつて、他のある機會に於ては全然その地位を轉倒するに至ると同然であらう。過去に於て劣位であり、弱位であつた民族が、その民族的努力と自覺によつて漸次向上し發展し、やがて優位强位に到達する事のあるは理の見易き次第である。

同じ血の流れを汲む自分達、同じ風習に生活する自分達、そして同じ言葉を語り同じ文化と歴史を通じて發達し來た自分達と人々が感ずる場合には、自分達仲間は他の血統、異る風習、相違する言語、差異ある文化と歴史の中に進んで來た人々達とは、別な人々であり、種族であり民族である事を自覺する。

かくて自分達同民族は事實上ある一定の土地に住み、一つの國家を構成して同じ政治組織、經濟組織の統制下に愈々向上し發展し、共に苦樂を希ふものとの自覺と希望とがあるならば、そしてそこに若しも右の如き希望が否まれ妨げられるならば、當然自分達民族の解放を要求し、これがためにあらゆる努力を捧げるに至るであらう。この民族自決を主義となすものは所謂民族主義であり、この主義の達成のために種々なる方法を盡して、之を實現せんとするものが即ち民族主義運動又は民族自決運動である。

元來民族自決の運動には二つの種類があるやうに思はれる。一は植民地の獨立運動であり、他の一は祖國の獨立運動である。前者は既に第一章第三節に於て述べた所の印度、フイリツピンを始めとして、其他ペルシヤ、イラク、ケラク、アラビヤ、アフガニスタン、エヂプト等に見る獨立運動であり、後者はバルカン方面に於けるギリシヤ、ブルガリヤ、ルーマニヤ、アル

バニヤ。ユーゴー・スラビヤ等の諸國及び中歐に於けるオーストリヤ、ハンガリー、チエツコ・スロバキア、ポーランド等の諸國に見る運動である。而して後者卽ち祖國運動には更に二種類ある。甲は他のA民族內に統一せられゐてるB民族が、その統治下から分離獨立してB民族本來の祖國を作らうとする運動であり、乙は現在一獨立國として嚴存してゐながら、內憂外患の危機に直面して、此處に祖國を守れの愛國運動によつて、その內憂外患を征服し、あはよくば他に植民地迄も獲得せんとする運動である。甲に屬するものは前にあげたバルカン及中央ヨーロツパ諸國であり、乙に屬するものは所謂今日フアツシズム運動を爲しつゝある諸獨立國に見らるゝものである。

民族運動には正否兩樣が存する。從つてそこには又幾多の矛盾が平氣で繰返されてゐる。が併し此處では今そんな問題を考究してゐる閑はないから、直ちにフアツシズムとの關係について一言しよう。

一例としてはフアツシズムの祖國イタリヤを見る。ムツソリニーはかつて「フアツシズムは私の心胸のうちから生れた。そして一九一九年三月ミラノの小會堂におけるる集會のうちから生れた。否我々地中海アリアン民族の深遠にして永遠なる要求のうちから生れた。」と言つた。こ

の言葉によつても明かなるやうに、ファッシズムはイタリヤ民族主義である。そしてファッショ運動は即ちイタリヤ民族運動即ちイタリヤ民族運動である。イタリヤ民族運動即ちファッショ運動については、既に第二章に於て述べたから、次にイタリヤ、ファッシズムの本質について簡明に示すことゝする。

民族主義は本來一國一民族を主義とする。從つて勢ひ近來發達した所の所謂國際主義に反對する。そして純然たる國家主義を主張する。又極端なる社會主義に反對する。それは階級の存在を認めてその鬪爭を主張するからである。民族主義に於てはかゝる階級主義を排斥して、一國一民族を主張する。換言すれば學生も、靑年も、有產者も、無產者もすべて國民として一律平等に取扱うとするのである。又ファッシズムに於ては從來の如き議會政治を排斥する。それは一政黨の黨利黨略を主と爲し易い政治だからである。それよりはファッシスタの獨裁政治を理想とするのである。又ファシズムに於ては國家の利益を本位とし第一とする。從つて個人の利益を輕く見て、國家の必要とあらば時には個人の利益は之を沒收も行はれ、又徵發も敢て爲されるのである。而してその最とも特徵とするところは行動であり、力である。行動を去り、力を除いてはファッショはないのである。イタリヤ黑シヤツ軍は實にそのための存在で

あるのである。

二、國民主義　それは換言すれば祖國至上主義である。端的に言へば祖國のためにといふことが國民主義の根本觀念である。祖國とは言ふ迄もなく個々の人々の屬する國、然かもそれは個々の人々の祖先も兩親も自己も皆同一の國土に生れ、そして同一の國土に死を遂げて行くところの國土である。別言すればそれは自己の遠い〳〵先祖が國を開いて以來、累代の國民がその國土の發展向上のために協力し、努力し、外敵の侵寇に會つては身命を捧げて之を防禦しつゝ護つた國家そのものである。それ故國民主義に於ては國の獨立を保全し、その精華を發揮しその傳統を擁護し、その文化を宣揚し更にその發展を期することが根本の思想である。

それならばかゝる國民主義は、常住不斷に國民の精神を支配してゐるものであらうか否かといふに、それは或一國家がある機會に於て他の國家から、何等かの壓迫乃至は侵略等を受けた場合に於て、鬱然として興起するものである。かゝる侵略とか壓迫とかいふものは、常に必らずしも武力的又は政治的のもののみとは限らない。ある場合には思想的なこともあらうし、又ある場合には經濟的なこともあらう。併し國民主義はそれ等の何れの場合たるを問はず、少くとも祖國の獨立、安寧、傳統、文化等が危險に遭遇した場合には、奮然起つて之を排擊し、退

去せしめてその國禍から祖國を防衞しようとするものである。之を客觀的に見れば消極的である。受動的である。逆に言へば他を壓迫せず、他を侵略せざる主義である。併しそれは本來の主義、根本の主義ではあるが、時に進出を餘儀なくされる場合がある。例へばイタリヤの如くその國土は他の諸國に比して、餘り廣からざるに、人口は非常に多く且つ自然的富源に乏しいとすれば、勢ひ國民生活の安定、富源獲得の必要は自然に起らざるを得ない。ある程度の植民地は絕對的に必要となる。

必要は必らず通ぜしめるものである。そこには力がいる。力？　それは政治力！　經濟力！　思想力！　科學力！　武力！　といつたやうな各種の力がいる。その何れにもせよ挑戰的立場であることは明かである。之を加へられる乙國側からすれば實に壓迫であり、時には侵略でもある。觀察の視野をかう擴げて見ると第二次的には、國民主義も又積極的能動的となるのである。從つてこゝにも又反國際主義、反××主義、反××主義、反社會主義といつた思想が流れてゐるのである。

(1)　反國際主義卽ち國際鬪爭主義　國際主義を主張する人々はいふ。國民主義は一の實に危險なる思想である。なぜなればそれは祖國至上の觀念であり、祖國本位の行動を取るからであ

る。それはやゝもすれば偏狹なる所の愛國心となり、そして自國以外の國々に對しては輕侮又は憎惡となり、遂には他の國家を征服し、他の民族を搾取して、ひとり自國の富强をのみ計るところの傾向を生み易い。卽ち國民主義は結局する所國民的利己主義でゐる。それ故にこの主義は國際平和を破り、國際協調を亂すものである。國民主義それは憎むべき國際平和の敵であると、そして國際主義こそは、國家を超越した所の全人類の寧福と利益を以て、第一義的原理とするものであつて、その根本觀念は「全人類は同胞である」からそれは國際間の平和、協調、そして國民相互の親愛を高唱する、高邁深遠なる理想的のものであると。

國際主義には理論として取るべきところはあらう。が併しそれは恐らく理想であり、永久の理想として眺めらるゝものでありはせぬか。著者は極めて卑近なる一例を示すに止めよう。

今此處に甲乙丙の各獨立した家族があるとする。そして之等の三家族は相互に相當の利害關係に於て、表面的には普通並みの交際が繼續されてゐる。今若し甲と乙との間に相反する利害問題が起り、次いで乙丙間に、又甲丙間にとかゝる問題が時々繰返される場合に、之等甲乙丙の常に相互に相反する利害關係を有つ家族達は、國際協調主義に滿足して、果して「全人類は同胞なり」否「全家族は同胞なり」の精神に進み得られるであらうか。然かも甲乙丙は全然、

血統、言語、風俗、習慣、文化等を異にするとしたらどうであらうか。多くを語らずとも讀者諸賢の想像にお任せしやう。況んや國風、人類、歴史、言語、風習、文化等を異にする各國民が、複雜繁多なる國際關係、利害關係の間に於て「全人類は同胞なり」を現前に實現し得られやうか。

人類の生活は國家生活に於て最も完全であり、理想と爲すものである。若しそれが眞實であるとするならば、人々は自國の發展、自國の繁榮のために、そして自國の傳統、文化、精華の保全發揮に最も忠實に且つ眞劍である筈である。國民主義はそこに眞理が存在し、根本觀念が藏されてゐる。實にや國民主義は自國の發展を主張する。從つて自ら國際主義に反對する。

フアッシズムの根底思想は國民主義である。從つて反國際主義であり國際鬪爭主義である。そこには當然第二次的ではあるが好戰的傾向が現はれる。「平和といふ言葉は美しい。けれども大砲や軍艦や機關銃や飛行機は更に美しい」、「フアッシズムとは血に充ちた思想と行動である」とはムッソリニーの言葉である。

ヒットラーは曰ふ「我々は再び武裝することを欲する。子供の讀本から大新聞に至る迄、す

べてが唯一の偉大なる任務のために役立てられなければならない。愛國者たちの心配が最とも幼い若者たちの頭腦のうちで、次のやうな熱烈な祈りにまで變るやうに――全能の神よ、われ等の武器の未來に祝福を與へ給へ！」

(2) 反階級主義即ち國内階級平和主義、フアッシズムに於ては國際主義に反對するのみではなく、又階級鬪爭は絕對に之を排斥するのである。それは國民主義を根底とする以上、國内に於て階級的利益のために鬪爭するが如き事は、當然に排撃せられねばならぬ。從つてフアッシズムに於てはマルキシズムには之れ亦絕對的反對である。否フアッシズムに於て階級鬪爭を排斥するに至つた原因は、マルキシズム撃滅より由來すること大なるものである。それ故にフアッシズムに於ては、ブルジョアもプロレタリアもない。之を認めない。國民はすべて平等一體である。ムッソリニー曰く

「我等は階級の代りに國民全體を置きかへねばならぬ。プロレタリヤの代りに全イタリヤ人をおきかへねばならぬ。戰士と將官と、學生と、官吏と、實業家と、知識階級と、都市及び田舍の勞働者との總ての國民をフアッショの下に結合せねばならぬ。」

ヒットラー曰く、

「ドイツはブルジョアたることを認むものによつてではなく、プロレタリヤたることを望むものによつてでもなく、たゞドイツ人たることを望むものによつてのみ打ち建てられねばならぬ」。「ドイツを分裂に導くマルクス主義は絶滅しなければならぬ。國家の力を弱めることを欲するものだけが階級闘爭を望むことが出來る。」

大英國の首領マクドナルドも、今や擧國一致內閣を組織して縱橫にその腕を揮つてゐるが、その組閣に際しては彼の多年慣用した所の「無產階級」なる言葉を一擲して「國民」なる語を以ておき代へたと言はれてゐる。

(三) 反資本主義及び反自由主義　フアッシズムは階級闘爭を排斥する。從つて又當然にブルジョア××主義を眞正面から攻擊し反對する。第三章第二節に於て述べたる如くフアッシズムは私有財產を容認する。けれどもこれは從來の資本主義の如く、私人の效用を增加するためではない。凡べて社會的國家的效用を增殖する上に容認したものである。それ故ナチスの綱領に見るも、不勞所得の廢止、利子××制度の打破、戰時××の沒收、大經營の××の分配、トラストの國有、大商館の公有化、公用のための土地無償沒收、地代の廢止、一切の土地投機の廢止等を主張してゐるのである。

一體資本主義なるものの第一の根底は營利主義である。それゆゑ、たとへ國利民福を増進するがためには大いに有用でなければならぬ筈の財貨が、その所有者たる資本家の營利慾を滿足する爲でなければ之を利用する事が出來ない。それが如何に社會生活に有益であり、國家生活に必要であるとしても、苟も營利の目的に合致せざる限り、資本は如何なる事業にも投下されない。反對に國民の風紀、道德、衛生上に如何に有害なる事業であつても、若しその事業そのものが營利の目的に適合するならば、直ちに之に向つて投資せられるのである。これは國家生活國民生活、乃至社會共同の生活上からは實に望ましからぬ經濟組織と言はざるを得ぬであらう。

資本主義第二の根底は自由主義である。否眞の自由主義にはあらで、自由放任主義である。即ち資本主義經濟に於ては如何なる經濟活動を爲すことも、又如何なる種類の物品を如何なる數量丈生産するも、而してその生産品を幾何の價格によつて販賣取引するも、一切個人の自由であるのである。生産分配が個人の自由であるのみではない。勞働上の問題にしても、勞働賃金は勞働者の生活を基礎として考慮されねばならぬのに、それは一向顧られずして資本家側企業者の利潤を先づ考慮した上で定められ、その賃金の不服なる者は解雇又は失職を餘儀なくされねばならぬ。換言すれば勞働者は全く傭者側の自由に奴隷ともなり、解雇もせられねばなら

ぬ。家主と借主との關係にしても同様である。又此處に例へば其日の生活資料にも慘苦を味はねばならぬ貧困者がゐるにも拘らず、一方には不勞にして多額の所得を以て、驕奢三昧に日を送る金持があるとしても、それは各自の自由であるからといふので、手の下し様もないのである。要するに一切の私經濟上の行爲は全然個人の自由に放任されてゐるのであつて、そこには著しき矛盾が存在してゐるのである。かゝる經濟組織は現代の社會生活、國家生活に害多くして益少きは明かであらう。

ファッシズムはかゝる望ましからぬ、そして××に充てる資本主義經濟機構、換言すれば個人の營利主義、自由放任の競爭主義は、最とも之を排斥するものである。そしてかゝる經濟組織の代りに、總ての事は國家の目的を第一として統制されなければならぬ。國家の使命を以て至高最上のものと爲すのである。それ故に國家目的のためには個人の富も削減せられ、時には沒收もされなければならぬ。從つて富を作出する所の生産機關も、又國家の統制下におかれねばならぬとするのである。こゝに即ち國家統制の經濟が誕生するのである。

(4) 國家統制經濟主義即ち國家計畫經濟主義　一國の經濟を國家が統制するといふ事は、必らずしもファッシズムに限られるわけではない。それは社會主義による經濟組織に於ても政府

が之を行つてゐる。併し乍ら後者に於ては始めから私有財産制を認めずして、總ての富を國有とするのである。それ故に社會主義に於ては個人は社會の中に消去されるが、前者卽ちファッシズムに於ては個人は社會の統制下におかれるだけである。

國民主義は各自の民族國家の發展と繁榮とをその終局の目的とする。資本主義が過去に於て國民主義の目的に合致し得た場合には、之を採用してゐた。併し今や資本主義は却つて國民主義の障害とこそなれ、その發展繁榮に貢献する所が望み得ぬ狀態となつた。それどころではない。國民主義は最早や資本主義とは相反する經濟原則と手を握らねばならなくなつた。個人主義、自由主義經濟原則に代はるに全體主義的、統制主義的經濟原則が採用せられるに至つたのである。

統制經濟！　それは平たい言葉で言へば、一國內に於て一人の失業者もなく、一人も貧困者もなく、不景氣もなくして、一人の食へない人もなくしやうとする經濟上の運動である。それが爲には資本主義經濟の如く個人の營利本位、個人の自由本位を排して公益本位、國家本位を基準として國家が經濟上の計畫を樹て、之が統制を行ひ、國家的に合理化しやうとするのである。それ故統制經濟なる語の陰にかくれて、個人が自己の經營する營利事業を計畫化し、合理

化し、統制化して現在よりも、より以上に勞働者を搾取し、又勞働者の失業を招來せしめて、自分一個の利益を增加しやうとするが如きは、斷じて統制經濟ではないのである。それは統制經濟の假面を被る、現代社會の認容せざる所の最も憎むべき惡鬼といふべきである。

(ラ) 諸主義の異同

(イ) 以上述べ來たつた事によつてフアツシズムは先づ民族主義であり、國民主義である事が明かになつたわけであるが、それならば民族主義と國民主義とは、どこに差別があるのか、それとも同事異名なのか、之を明にしておく必要があると思ふ。さて民族主義といふのは一國一民族、換言すれば一民族が一つの國家政權の下に集り、而してその國家政權は、全く自己民族によつて確立しやうといふのである。即ち他民族の支配から解放されて自己民族のみの國家を獨立せしめ、依て以て自己を支配して行かうといふのである。それ故若しさうした希望をさへ達成せられるならば、政體の如きは立憲君主制であらうと、立憲民主制であらうと、又は專制政治であらうとそんな事は別に問ふ所ではないのである。フアツシズムを採るか、共產主義によるか、資本主義を採用するか、そんな事に關はりはないのが民族主義である。

國民主義は第一次的には祖國至上主義である。祖國の獨立を保全し精華を發揮し、傳統を擁

護し、その文化を宣揚することが根本の思想である。而して第二次的には國家の發展繁榮を目的とする。從つて單に國家の獨立保全、傳統の擁護のみでは勿論ない。進んで自國民の世界的發展、國外への進出を企圖するものである。それ故に當然原則的には國際主義と相容れない。それは自由主義的國際主義であらうと、社會主義的國際主義であらうと、要する所國際主義そのものと相反する主義であるのである。

民族主義と國民主義との差異は以上の說述によつて分明するであらう。フアッシズムは實にこの双方を包含する。それ故往々その一方卽ち民族主義を以てフアッシズムを表現し、又は國民主義を以てフアッシズムを表現せらるゝ事あるも、それは決してその純粹なる意義に於ての一方を意味するものではなくして、たとへばフアッシズムは民族主義であると言つても、その中には國民主義が包含されてゐるものと解すべきである。ムッソリーニの「フアッシズムは私の心胸のうちから生れた。………我々地中海アリアン民族の深遠にして永遠なる要求のうちから生れた。」といつた事も以上の如く解してこそ眞の意味が了解せらるゝのである。

（ロ）序ながら國家主義と國民主義との關係について一言しておこう。國家主義といふのはすべての事柄を國家本位とする主義である。卽ち國家の事福、國家の名譽、國家の向上等を第一

義として思想し行動する事を原則とする主義である。更に之を具體的に言ふならば、すべての個人や階級は先づその個人的慾望や階級的利益は之をすてゝ顧みず、第一に國家のために奉仕し犠牲となることを主義とするものである。國民主義は第一次的には祖國至上であり、第二次的には世界的發展を主義とするものである。それ故に國家主義は國民主義の中に包括せられるものと言へよう。換言すれば國家主義と國民主義とは同一物の兩面にすぎない。前者は對內的統一に主點をおき、後者は更に對外的發展を期せんとするものである。前に國民主義は第一次的には消極的受動的であり、第二次的には積極的能動的であると言つたのはこの意味である。

（ハ）國家社會主義と國民社會主義　これは今日の我國に於ても相當やかましく叫ばれ既に之等の主義を基調とする政黨まで出現してゐるのであるから、その主義は如何なるものであるかを之も簡單ながら明かにしておかうと思ふ。國家社會主義及び國民社會主義といふのは夫々國家主義、國民主義に社會主義を結合したものである。而してこの社會主義なるものは決して、マルクス派のものでもなければ、又資本主義擁護のものでも勿論ない。それは中間的穩健なるものである。從つて國家社會主義に於ても、國民社會主義に於ても共に國際社會主義に對立し、又國家否定の社會主義に反對するものである。そして資本主義特に金融資本主義の抑壓を

以てその明かなる鬪爭目標とするものである。
以上の如く觀察すると國家社會主義と國民社會主義とは全然同一なる如く解せられるけれども、之を嚴密にいへば前者は本來、國家又は政府の行ふ社會主義をいひ、後者は民族的、國民的なる所の社會主義である。卽ち後者は單に國家の存在を容認するとか、又は國家による社會主義とかいふものではなくして、民族國家の建設完成が其目的であるのである。それ故この兩者の關係は恰も國家主義と國民主義との關係に大體相似してゐるわけである。

第二節　行動主義

一、理論なき理論　一般にフアッシズムを批判するものは、フアッシズムにはその根底となる理論がないといふのである。併しフアッシストに言はせると、それがフアッシズムの一大特徵である。フアッシズムには理論なき理論が嚴存するのだといふのである。そして綱領とか原理とかいふものは單なる過去の歷史の辯解か、或は將來の豫想を樹立するだけのものである。過去の辯解は無價値だ、將來の豫想は必らずしも當てにはならぬ。それは千變萬化の國民生活には適當するものではない。それ故寧ろそれよりも、より必要なのは現實に於ける理想である。

明瞭にして且單純なそして民族精神によく合致した所の理想こそ必要なのである。否現實に高邁深遠なる理想を立て、その理想に向つて屈曲自在の躍進を續けることこそ緊要なのである。その行動のみが眞に尊いものなのである。このことをギバンニ・ゼンチレは次の如く言つてゐる。

「ムツソリニイの眞の決斷は、常に全體としてつくられると同時に直ちに實現されるところのものである。彼は常々自分が機宜に應じて活動する人間である事を誇りとしてゐる。行動の實現を可能にし、適當とする一切の條件及び理由の成熟した、丁度適當な時機に於て決斷し行動する事を得意とする。彼は實にフアツシズムに於てマツチニの唱へる眞理、知行合一の最も嚴格なる意味を代表するものである。かくして思索と行動の二語を同義化して、この兩者を完全に一致せしめる。」

右によつても明かなる如くフアツシズムに於ては、思索と行動とは直ちに融合化され、速かに實行せられるのである。從つて思索、理想、理論それは個々獨立に實現されるのであつて、必らずしもその一つ一つが連絡し體系化されてゐるものではない。それ故之を異なる角度に於て觀察すれば或は無理論となり、又無理論の理論となるのであつて、要は近視、遠視、正視の

眼によつて綱膜への映像が異るのである。

二、強力支配　前述せる如き理論なき理論の結果が、フアッシズムに於ては「理論よりも先づ實行」といふ事になつて、實に猛烈果敢なる所の闘爭心を必要とするのである。そして「先づ闘爭！　而して闘爭からのみ吾人は何をなすべきかを探知する事が出來る」といふ彼等フアッシスト共通の信條が生れる。ムッソリニーはいふ。

「如何なる種類の政府の行動でも、何等かの不滿を呼び起さずにはゐないといふ事は、殆んど公理のやうに一般的である。この不滿が國家の結合を危くするほどの大きな流れにならうとした時に、諸君は如何にして之を防がうとするか？　それはたゞ力によつてのみ、否力の集積によつてのみ、而して必要な場合には、この力を容赦なく使用することによつてのみ防止することが可能なのである。今やフアッシズムは生命のない一切の理論を、ゴミ棄場へ投げすてるだらう。ある集團又はある黨派が權力を握つた場合には、自己の地位を堅固にして、すべての外來者に對して自己を防護するのはその義務である。人々は恐らく『自由』に飽きてゐる筈である。」

「反抗する馬鹿者共に對しては五十萬本の棍棒がいつも用意されてゐる。必要な場合には十

分な機關銃と爆彈も備はつてゐる。吾人のプロパガンダは唯一つである。曰くファッシズム！ファッシズム！　ファッシズム！　若しこれに耳を貸さないものがあれば、即ち棍棒が見事に振はれるのだ。」

「吾々はたゞ塹壕で得た經驗を應用するだけだ。そこでは吾々は人間を犬のやうに串刺しにすることを學んだではないか。」

ヒットラーは

「吾人が曾つて望み、且つ將來にも希望する所のものは、百人や二百人の勇敢な陰謀者ではない。われ〳〵の世界觀のための十萬また十萬の熱狂的な鬪士である。」

「突擊隊は獵犬の如く敏速に、革の如く強靭に、クルップ銃の如く堅固に」と叫ぶのである。又

「ベルサイユの鎖を粉碎せよ。ヤング案を寸斷せよ。吾々が若し今日ドイツの獨裁官となつたならば、明朝八時からは、最早や唯の一文でも賠償金は支拂はないであらう。」

「我々はマルクス主義者に示すであらう。將來は國家社會主義者が正しく國家の主人となるであらうやうに、街頭の主人ともなる事を。」

かくてファッシズムに於ては直接行動であり、强力支配を要求する。それは終極に於ては獨裁政治の實現である。獨裁政治は議會政治の拒否であり、英雄主義の政治である。議會政治には多くの長所が存するに拘らず、今や世界は擧げて之を拒否せんとしてゐる、そこには議會政治そのものに何等かの缺陷と、現代人がそれに向つての不滿があるからであらう。そして一方には既に出現した所の獨裁政治が多くの功績を示してゐるからである。次に一例としてイタリヤ獨裁政治の結果の一端を示さう。

(1) 内政的には

(イ)一度に四萬内外の官吏を整理し、尙殘餘官吏の減俸を斷行す。

(ロ)地方裁判所五〇、大審院數個を廢止して經費を節約す。

(ハ)其他諸官省の廢合による經費節約。

(ニ)官私立學校の差別待遇全廢の斷行。

(ホ)ローマ法王廳に對する年金支拂問題の解決。

(2) 國際的には

(イ)地中海沿岸の地方問題に關してフランスとの交涉に成功す。

（ロ）ドデカネス群島を領有となす。
（ハ）海軍問題についての成功、
（ニ）バルカン方面への進出、
これ等は從來のイタリヤ政府が爲さんと努めて、到底成し得なかつた所である。
次にも一つトルコに於けるケマル・パシヤの獨裁政治の成功を示さう。
(1) 國　內　的
（イ）皇帝權及ハリフ位の排棄。
（ロ）修道院の廢止。
（ハ）アラビヤ文字の廢止。
（ニ）服裝の歐化。
（ホ）回々教の排除。
（ヘ）教育の國民大衆化。
(2) 國　際　的
（イ）首都コンスタンチノープルの奪還。

（ロ）ローザンヌ會議の成功。

（ハ）民族問題の解決。

（ニ）治外法權の撤廢。

（ホ）關稅の自治權確立。

三、行動主義　以上の叙述によつて明かなる如く、フアツシズムは敢然抽象的從つて智的哲學に對して抗爭するのである。一般に哲學者といふものは、人生の外に立つて人生を説明する所に哲學なるものを認める。併しフアツシズムに於ては、哲學はたゞ實踐の哲學としてのみ理解する。それは智的哲學ではなくて、正に行の哲學である。それ故にフアツシズムに於ては、之を發表し、之を斷定するに當つては、智的哲學に於けるが如く公式を以てする事はなく、單に行動によつてのみ發表し斷定するのである。

フアツシズムの運動は既に詳しく述べた樣に、一にはイタリヤ國民の精神的統一をば、血によつて築き上げやうとした所のイタリヤ國民の自覺運動であり、又一にはヨーロツパ大戰後の國内の混亂を集拾するに當つて、從來の自由主義、議會主義の無爲、無力、無活動に對する青年壯者の反抗運動でもある。それ故それは何よりも先づ智的哲學ではなくて、行動主義に基い

たといふ事が出來るであらう。

ファッシズムーそれは實に結束、力、統制、そして行動そのものである。

（終り）

昭和七年九月[illegible]日印刷
昭和七年九月八日發行

ファシズム 奥附 金四十五錢

著作者 坪内武四郎
東京市麹町區富士見町五丁目九番地

發行者 株式會社教育研究會 代表者 辻本經藏

東京市牛込區山吹町一九八番地
印刷者 高瀨末吉

東京市麹町區富士見町五ノ九
版元 教育研究會
振替口座 東京五八一八〇番 大阪六八八〇〇番
電話 九段〇七二七番

印刷 高瀨印刷所

早大教授 内ヶ崎作三郎先生著

人生學

四六判總白布
上製函入
五百四十餘頁

忽八版

特價金貳圓五拾錢
書留送料十八錢

古往今來人生に關する論議は絶えない。聖賢、哲人、科學者の間に於て或は直觀に基き、或は思索に訴へ、或は討究に因りて、人生の諸問題は深く、高く、廣く論ぜられた。然れ共その觀察は多くは一方面に偏し、宗教を旨とするあり、哲學を主とするあり、科學に專らなるあり、その綜合統一的大觀を極めたる者は稀である。本著は天文學、生物學の事實に依りて生命進化の跡を辿り、人類學に依りて、人類の出現とその發達とを敘し、環境に重きを置いて民族性及び國民文化を述べ、創造的進化論に立脚して性の問題を取扱ひ、以て自然主義と倫理觀念との調和を企て、社會學及び教育學の見地に依りて遊戲娛樂を說き、更に又最も進歩せる宗教學を背景として宗教の進化を詳論し、最後に人生終極の理想と靈魂の不滅說に對して鐵案を下したものであつて人生の諸問題は殆ど網羅して剩す所がない。今や文化の改造と社會的更始一新の聲野に高く叫ばるゝの時、靜かに人生を反省し、過去、現在、未來を貫通する大道を味讀せらるゝは本書の讀者の有する特權である。敢て之を江湖に推薦する。

發行所 東京麴町區富士見町五 振替東京五八一〇番 教育研究會

◎教育研究會出版目錄◎

著者	書名	形態・頁數	定價・送料
早大教授 中島半次郎遺著	◎教育の本質	四六判上製 二四六頁	金二圓 料十二錢
臺北帝大教授 伊藤猷典著	●教育學の對象と其の方法	四六判上製 二一八頁	金二圓 料十八錢
小林澄兄序 野瀨寬顯著	◎文檢参考 現今教育目的論及の叙述批判	四六判上製 一七三頁	金二圓 料十八錢
成蹊學園教授 野瀨寬顯著	●文檢参考 現今教育方法論及の叙述批判	四六判上製 二二九頁	金二圓 料十八錢
九州帝大教授 松濤泰巖著	◎全我活動の教育	四六判上製 四一六頁	金三圓 料十八錢
武藏高校教授 山本良吉著	●改訂 新訓練論	菊判布製 三三八頁	金二圓五十錢 料十八錢
醫學士 山崎論久著	◎兒童生徒 衛生的觀察と 養護の實際	菊判上製 六一二頁	金四圓五十錢 料二十四錢
文學士 吉田熊次著	●ドルトンプランの批判	四六判布製 二四八頁	金一圓八十錢 料十二錢
ドクトル オブ エコノミックス ドクトル オブ フィロソフィ 市丸節著	◎自由教育駁論	四六判上製 二三四頁	金一圓五十錢 料十二錢
成蹊學園教授 栗山重著	●自然科指導の實際	四六判美本 四三二頁	金二圓 料十八錢

◎教育研究會出版目錄◎

著者	書名	形態・頁數	定價・送料
物理學校講師 本田親二著	◎天文學概論	菊判上製 二五〇頁	金二圓五十錢 料十八錢
陸軍士官學校教授 池田清著	●無機化學講義	菊判上製 四六二頁	金三圓八十錢 料十八錢
五高教授 八波則吉著	◎趣味本位 幼年課外讀本	菊判色刷 一一二頁	金三十五錢 料六錢
同	●趣味本位 少年課外讀本	菊判色刷 二六四頁	金五十錢 料六錢
丘淺次郎序 太田幸一著	◎趣味の生物學	菊判布製 二七四頁	金二圓五十錢 料十八錢
ロアゾウー著 三島章道譯	●少年團概論	四六判美本 四四〇頁	金二圓 料十八錢
文部省少年團調査委員 奥寺龍溪著	◎列强少年の社會教育	四六判上製 一三八頁	金一圓五十錢 料十二錢
法學士 片山哲著	●婦人の知るべき法律	四六判布製 五二〇頁	金三圓五十錢 料十八錢
一高講師 和田八重造譯	●家庭科學	四六判上製 三八二頁	金三圓 料十八錢
醫學博士 竹内薫兵著	◎愛兒の育て方と病氣の手當	四六判上製 四五〇頁	金二圓 料十二錢

◎教育研究會出版目錄◎

著者	書名	形態・頁數	定價・送料
小川汀鶴著	◎實驗研究 書き方教材及精說	菊判美本 九四頁	金一圓 料八錢
大林惠美四郎著	●現代 學校體操指導の要點	四六判上製 一八〇頁	金一圓三十錢 料十二錢
同	◎改新 運動競技法	四六判上製 一五〇頁	金一圓 料八錢
坂本[illegible]吾著	●彈力性健康法 坂本屈伸道	四六判並製 一二九頁	金五十錢 料六錢
峰地光重著	◎新訓導論	四六判布製 二三八頁	金一圓五十錢 料十二錢
龜井俊男著	●新教育者のために	四六判上製 五八〇頁	金二圓五十錢 料十八錢
武藏高校教頭 山本良吉著	◎若い教師へ	菊半截判 一一六頁	金三十五錢 料四錢
守屋貫秀著	●教育への思慕	四六判上製 三七六頁	金一圓八十錢 料十二錢
教育學教會編	◎教育家創作集	四六判美本 三二〇頁	金一圓八十錢 料十八錢
志垣寛著	●教育界の新人舊人	四六判上製 三三八頁	金一圓五十錢 料十二錢